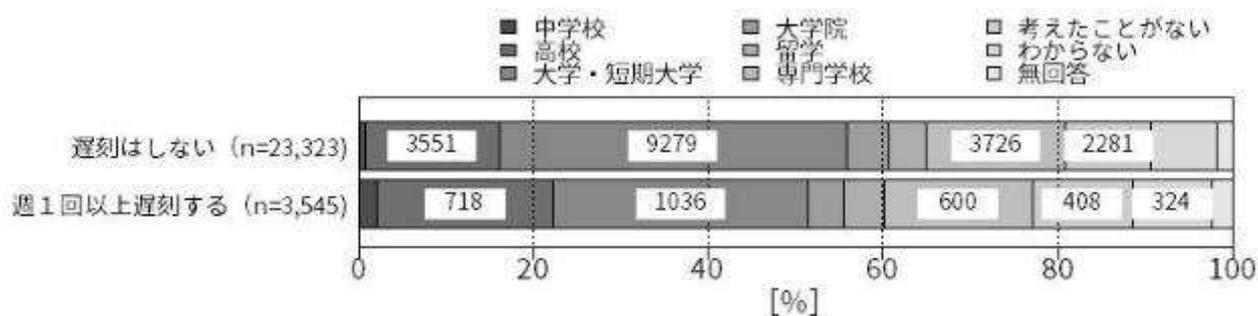


学校への遅刻別に見た、希望する進学先（子ども票 問9 × 子ども票 問27）

<大阪市24区>



<大阪市北区>

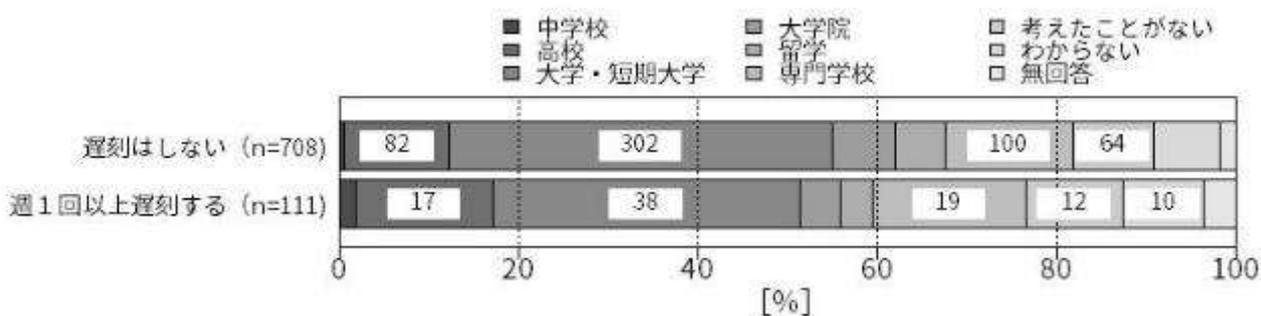


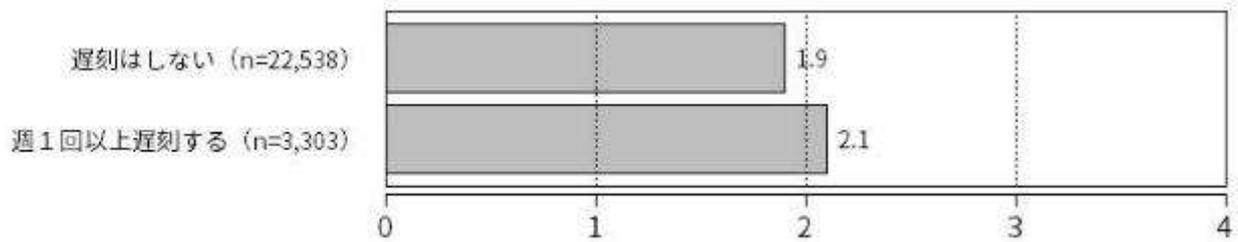
図 256. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に子どもの希望する進学先を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは「中学校」「高校」と回答した割合は合計すると17.1%であった。「遅刻はしない」子どもは、「大学・短期大学」と回答した割合が42.7%であった。

学校への遅刻別に見た、学習理解度（子ども票 問9 × 子ども票 問18）

※学習理解度について、「1. よくわかる」～「4. ほとんどわからない」まで4項目で評定させた。数値が低いほど、学習理解度が高いことを表す。

<大阪市24区>



<大阪市北区>

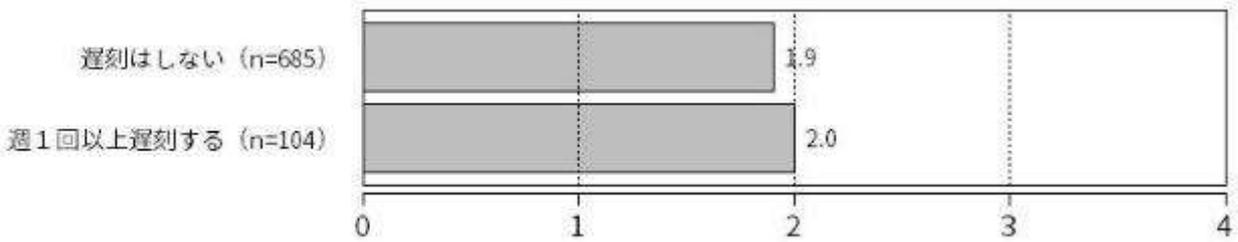
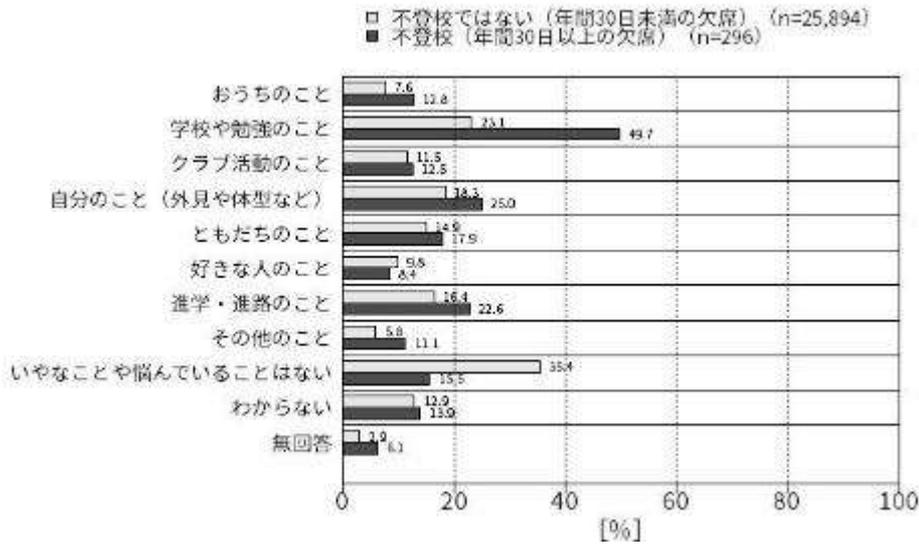


図 257. 学校への遅刻別に見た、学習理解度

学校への遅刻別に子どもの学習理解度を見ると、「遅刻の有無によって学習理解度に大きな差は見られない。

登校状況別に見た、悩んでいること（保護者票 問 21 × 子ども票 問 21）

<大阪市 24 区>



<大阪市北区>

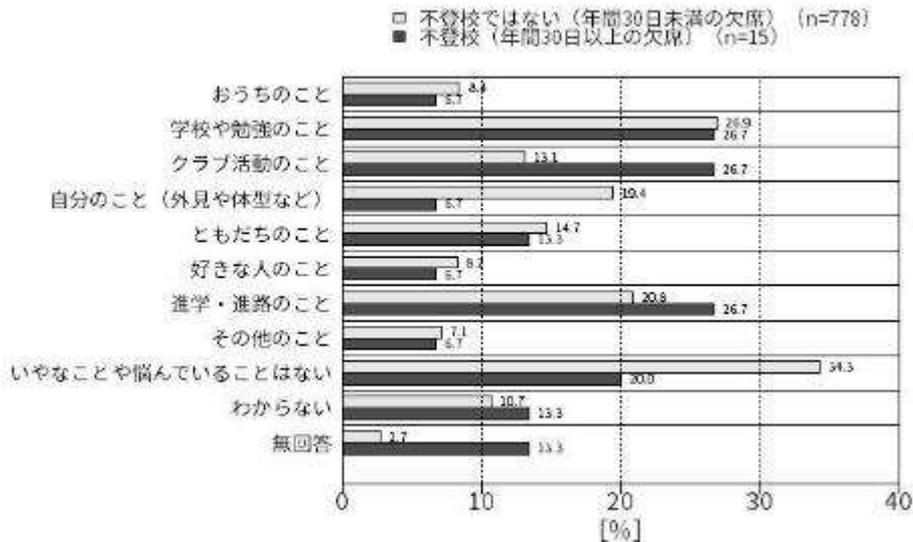


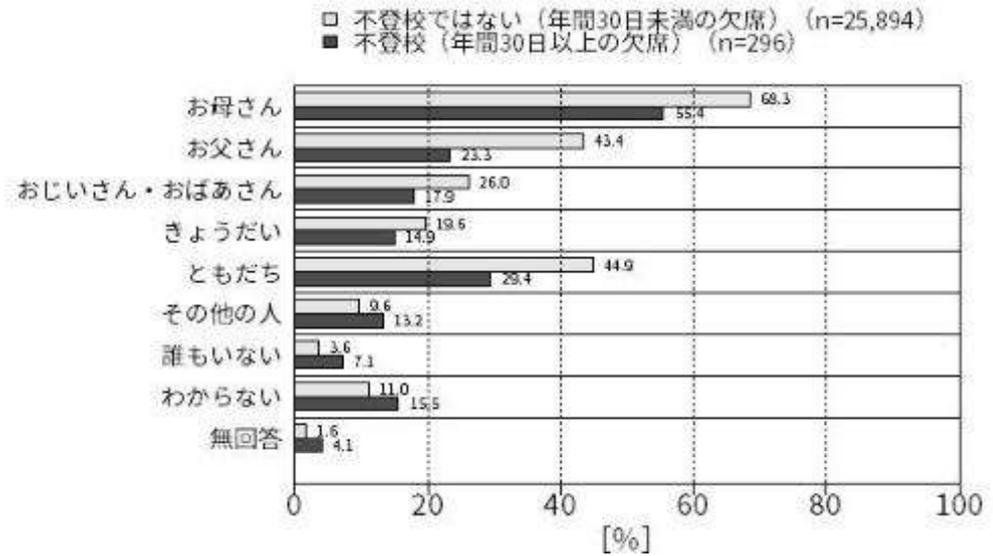
図 258. 登校状況別に見た、悩んでいること

ここでは、保護者票問 18 において「ほぼ毎日通っている」「欠席は年間 30 日未満である」を「不登校ではない」、「欠席が年間 30 日以上、60 日未満である」「欠席が年間 60 日以上、1 年未満である」「欠席が 1 年以上続いている」を「不登校」としている。

登校状況別に子どもの悩んでいることを見ると、「クラブ活動のこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 2.0 倍、「進学・進路のこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 1.3 倍となっている。また、「不登校でない」子どもでは、「いやなことや悩んでいることはない」に該当するのは 34.3%であった。

登校状況別に見た、「悩んだときの対処を教えてくれる人」がいない割合
 (保護者票 問 21 × 子ども票 問 23⑥)

<大阪市 24 区>



<大阪市北区>

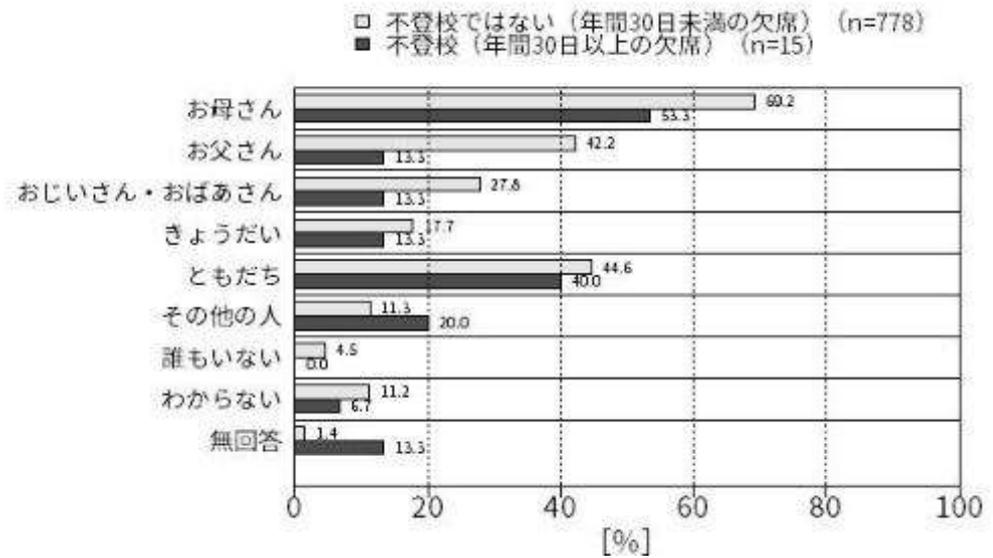
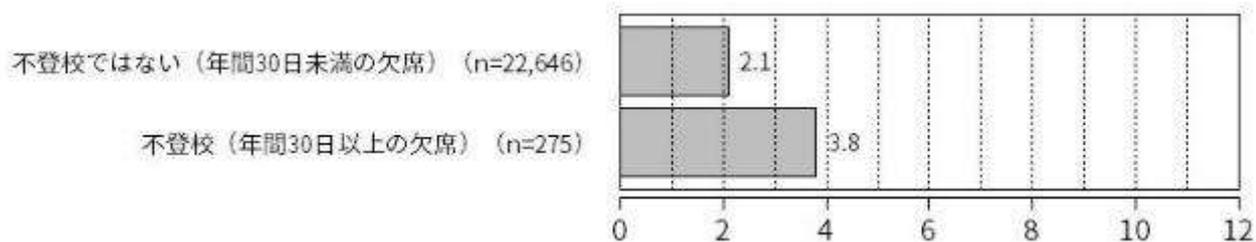


図 259. 登校状況別に見た、「悩んだときの対処を教えてくれる人」がいない割合

登校状況別に子どもの「悩んだときの対処を教えてくれる人」がいない割合を見ると、いずれも「お母さん」が高かった。

登校状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(保護者票 問 21 × 子ども票 問 24)

<大阪市 24 区>



<大阪市北区>

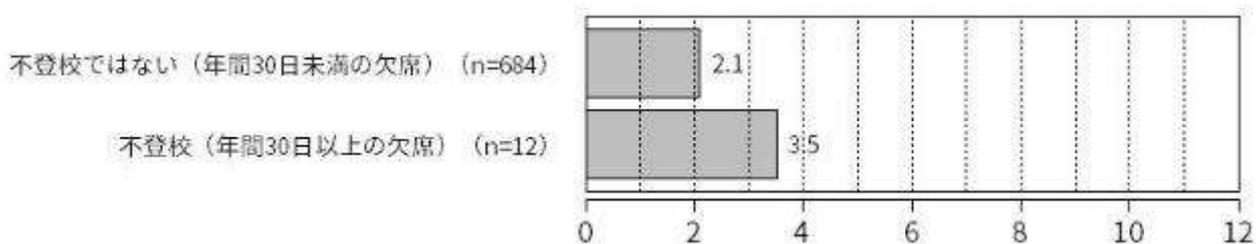


図 260. 登校状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

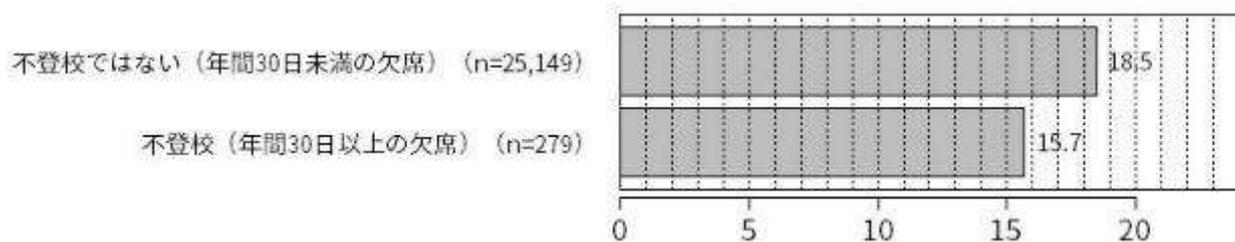
登校状況別に子どもの自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「不登校」では平均 3.5 個であり、「不登校ではない」子どもの約 1.7 倍である。

登校状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(保護者票 問 21 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市北区>

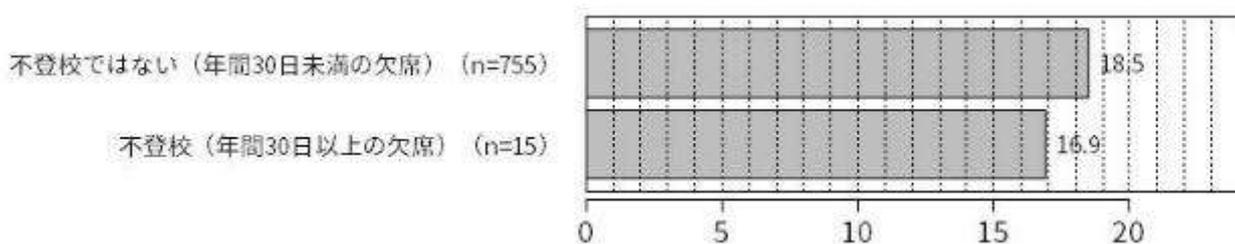
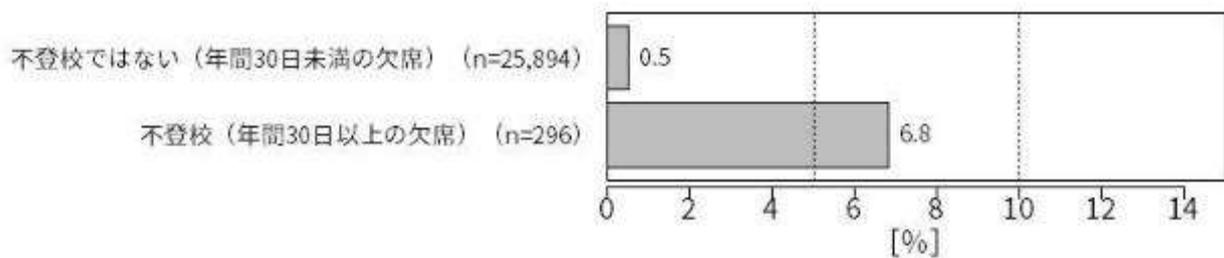


図 261. 登校状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

登校状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「不登校」では平均 16.9 点であり、「不登校ではない」子どもよりも約 2 点低い。

登校状況別に見た、スクールカウンセラーに相談する割合（保護者票 問 21 × 子ども票 問 22）

<大阪市 24 区>



<大阪市北区>

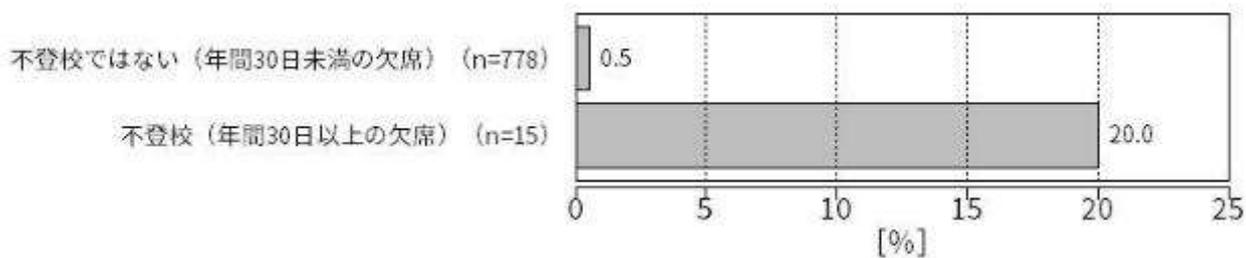
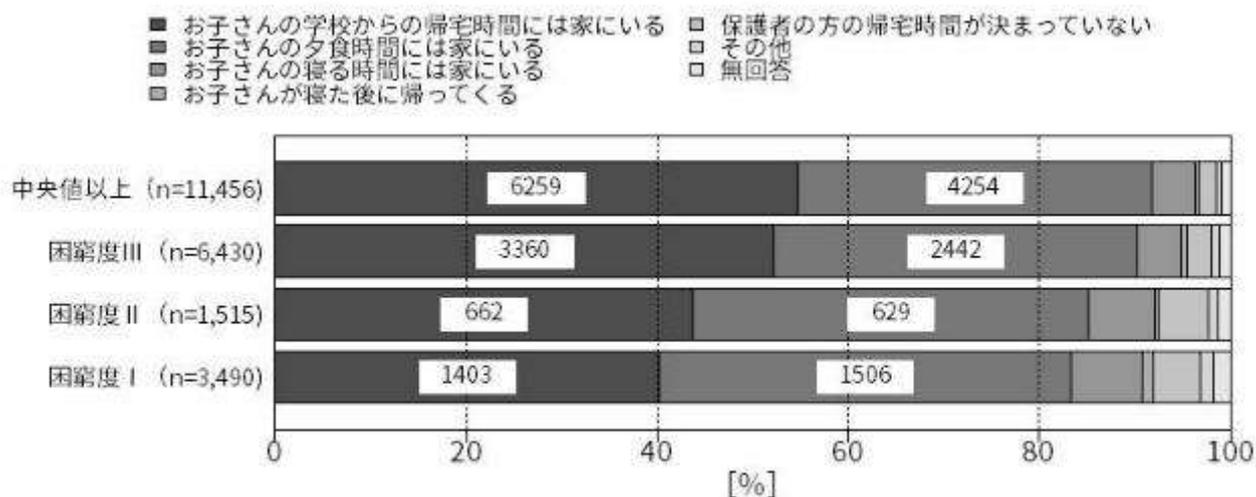


図 262. 登校状況別に見た、スクールカウンセラーに相談する割合

登校状況別に子どもが嫌なことや悩んでいることをスクールカウンセラーに相談する割合を見ると、「不登校」の子どもは20%が相談すると回答しており、「不登校でない」子どもの回答の40倍であった。

困窮度別に見た、保護者の在宅時間（保護者票 問10）

<大阪市 24 区>



<大阪市北区>

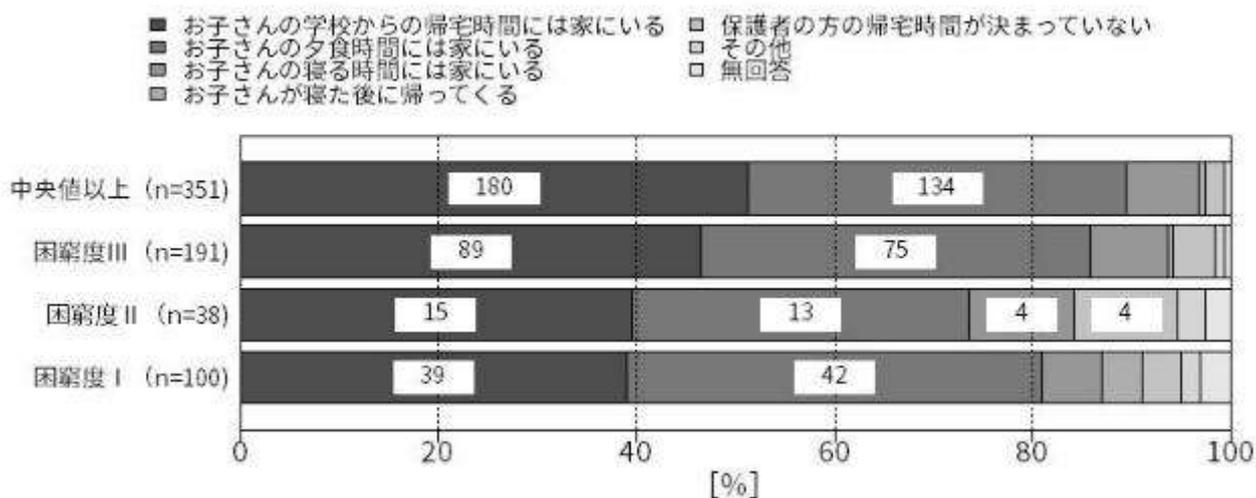
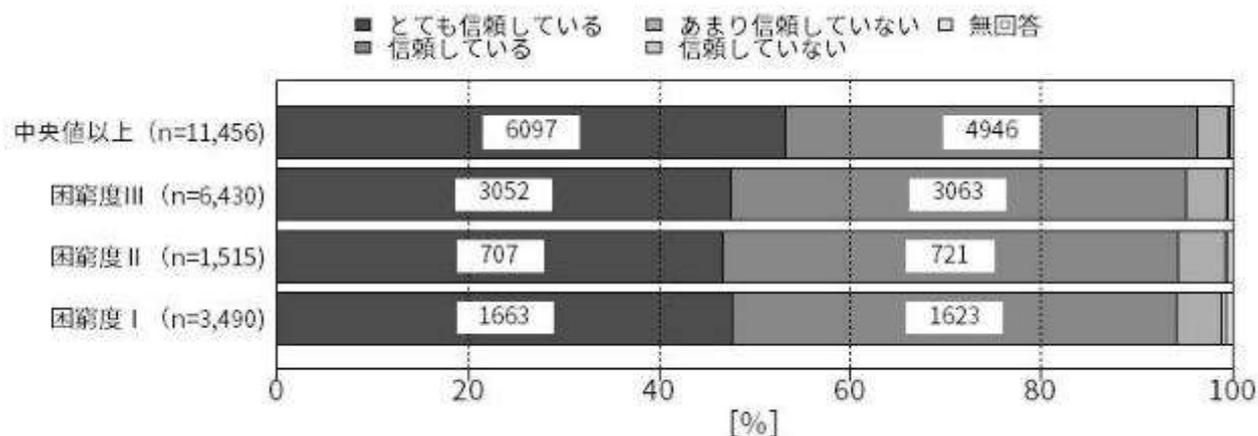


図 263. 困窮度別に見た、保護者の在宅時間

困窮度別に保護者の在宅時間を見ると、中央値以上群の方が、困窮度Ⅰ群よりも、「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」と回答した割合が高い。また、困窮度Ⅰ群では「お子さんの寝る時には家にいる」と回答した割合が高く、6.0%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）（保護者票 問 14(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市北区>

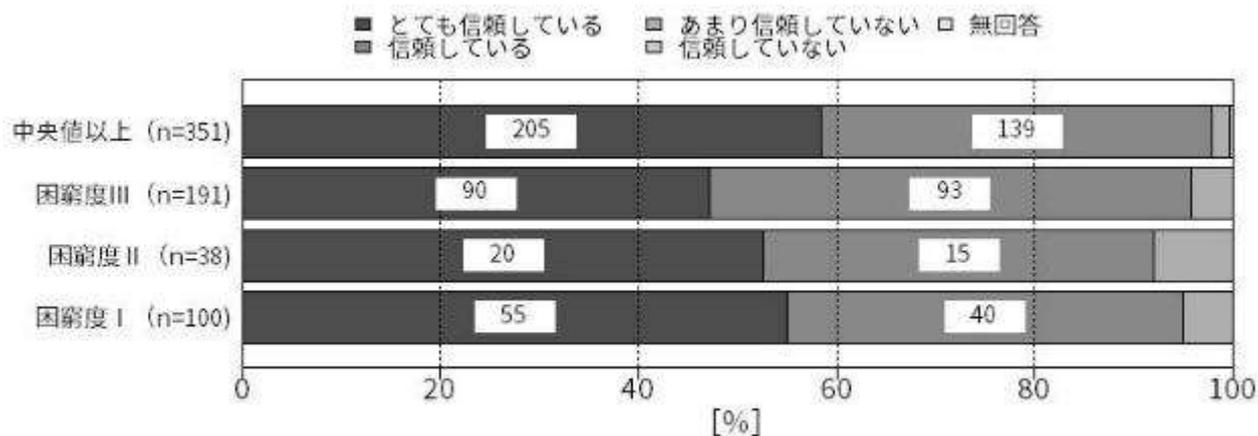
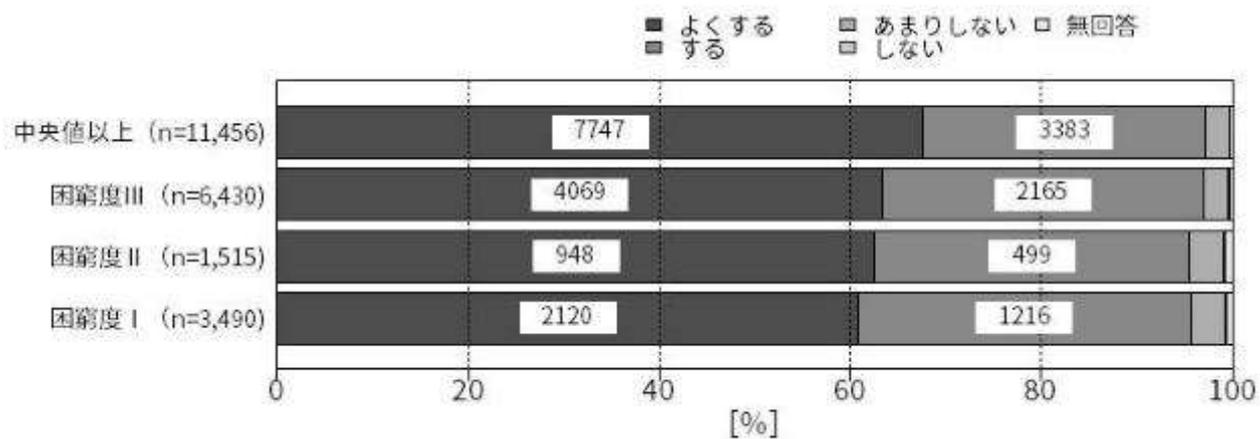


図 264. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は、中央値以上群では 58.4%、困窮度Ⅰ群では 55.0%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）（保護者票 問 14(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市北区>

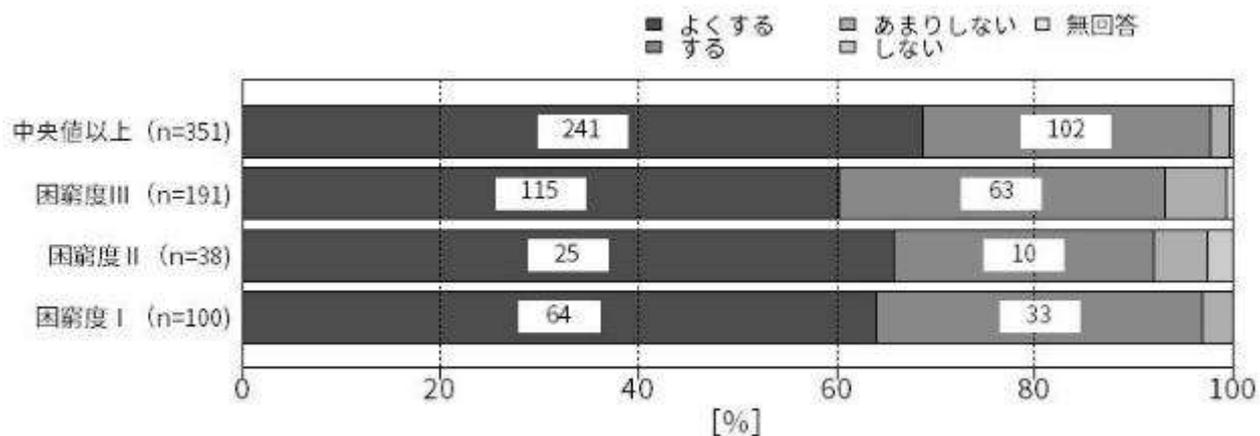
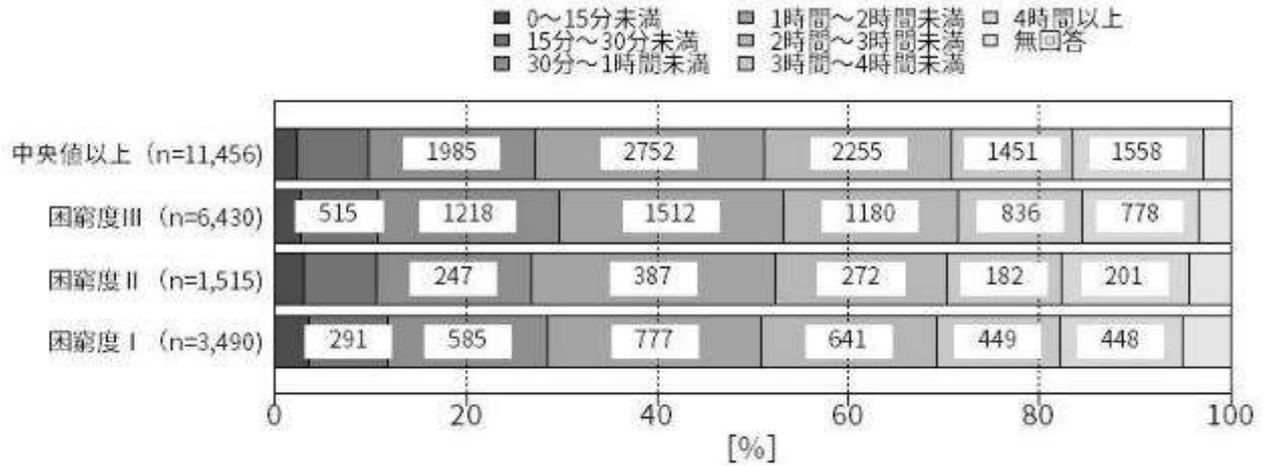


図 265. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「よくする」と回答した割合は、中央値以上群では 68.7%、困窮度Ⅰ群では 64.0%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
（保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市北区>

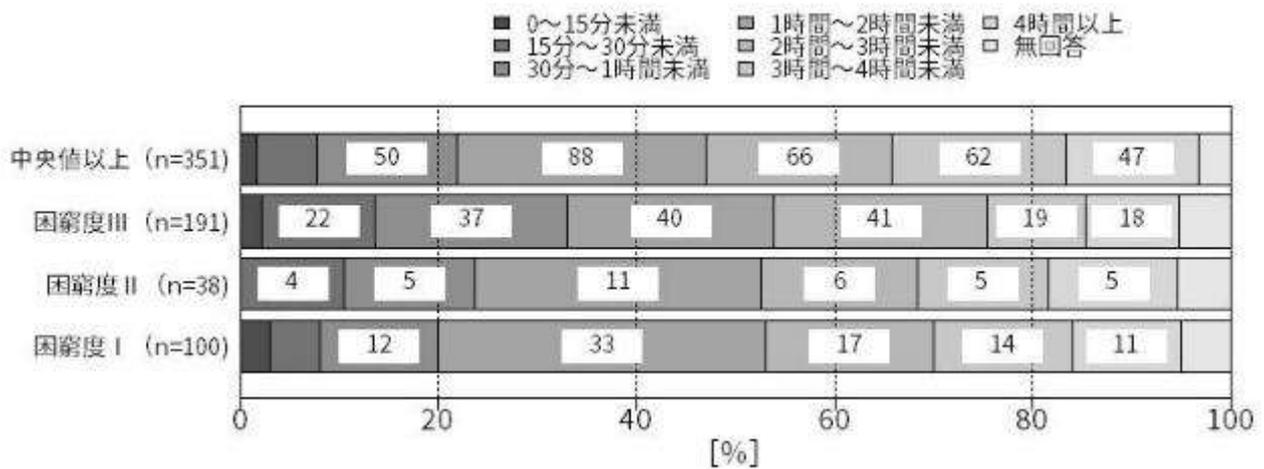
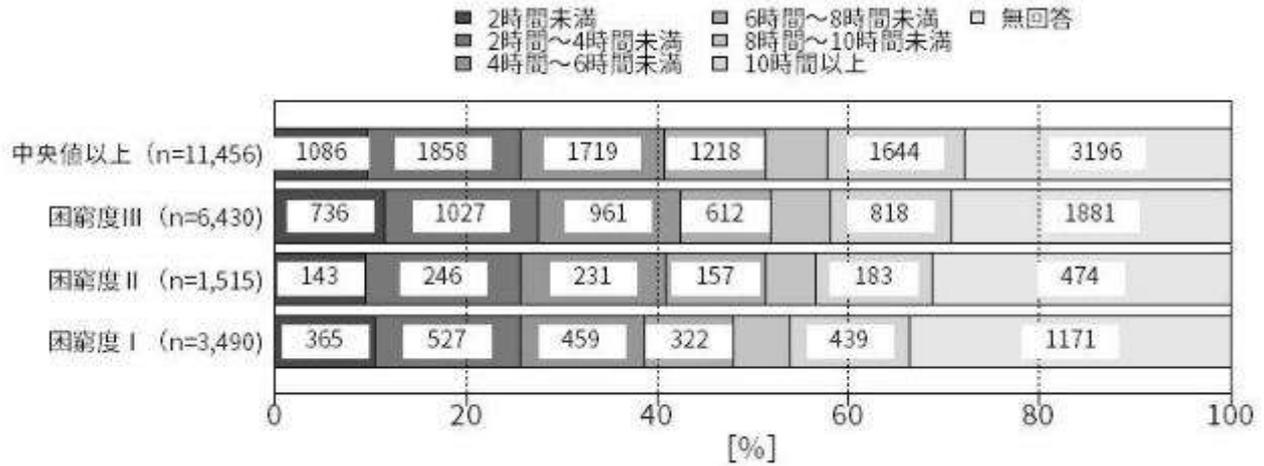


図 266. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、「4時間以上」と回答した割合は中央値以上群で13.4%、困窮度Ⅲ群で9.4%、困窮度Ⅱ群で13.2%、困窮度Ⅰ群で11.0%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
（保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市北区>

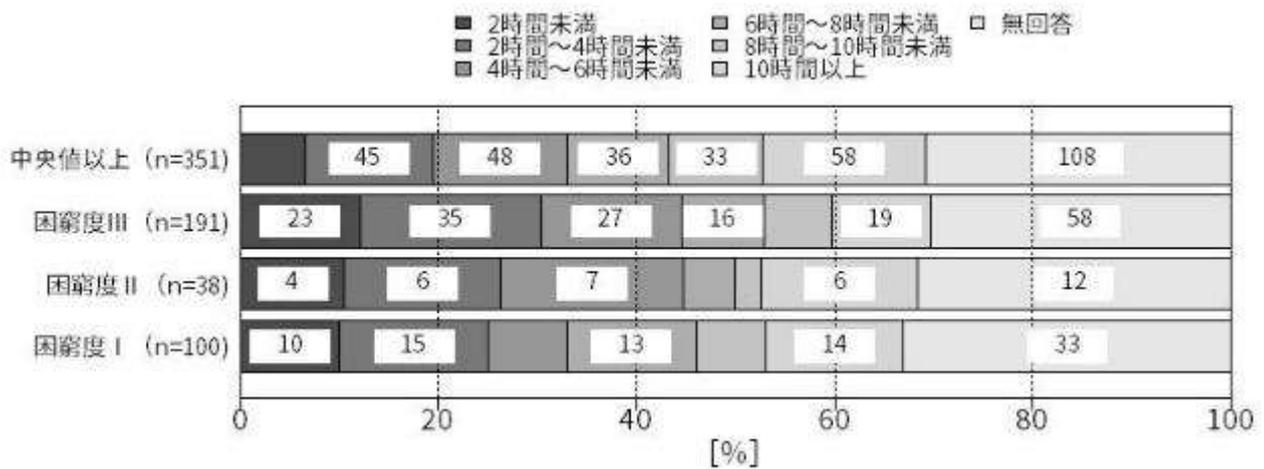
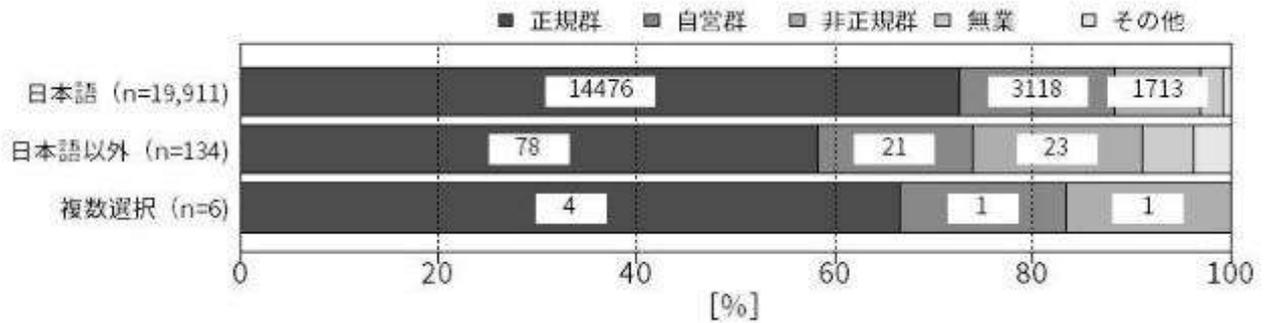


図 267. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））を見ると、「10時間以上」と回答した割合は中央値以上群で16.5%、困窮度Ⅲ群で9.9%、困窮度Ⅱ群で15.8%、困窮度Ⅰ群で14.0%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、就労状況
 (保護者票 問2 × 保護者票 就労状況)

<大阪市24区>



<大阪市北区>

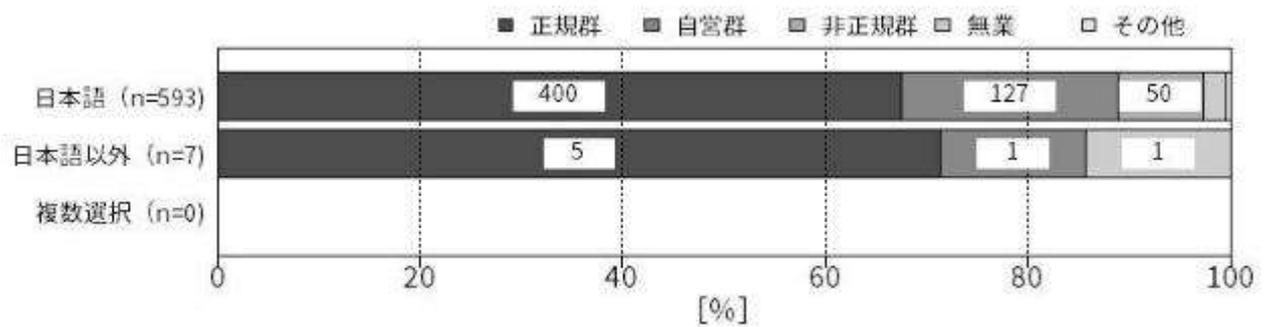
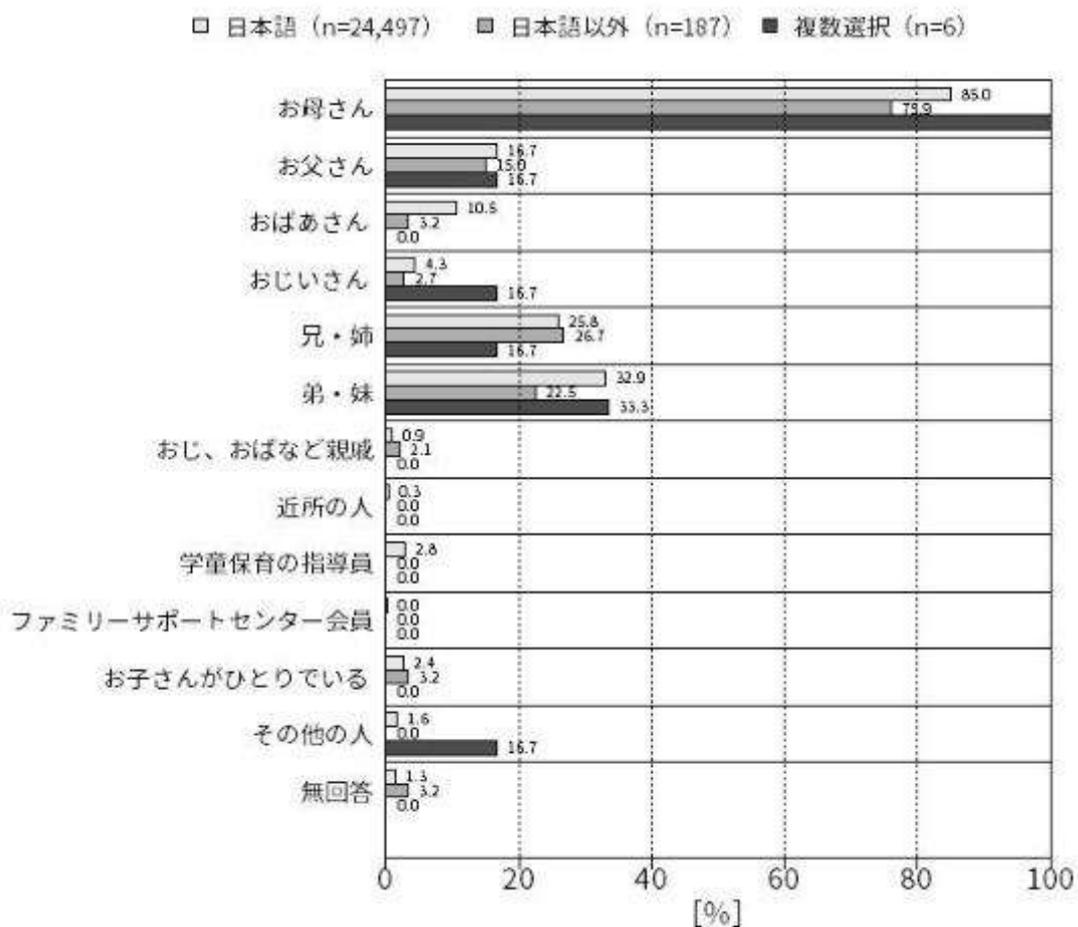


図 268. 日常生活でよく使う言葉別に見た、就労状況

就労状況について、日本語を母語としない場合は7人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、就労状況について述べることはできない。日本語を母語とする場合、非正規群が8.4%、無業が2.2%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人
 (保護者票 問2 × 保護者票 問11)

<大阪市24区>



<大阪市北区>

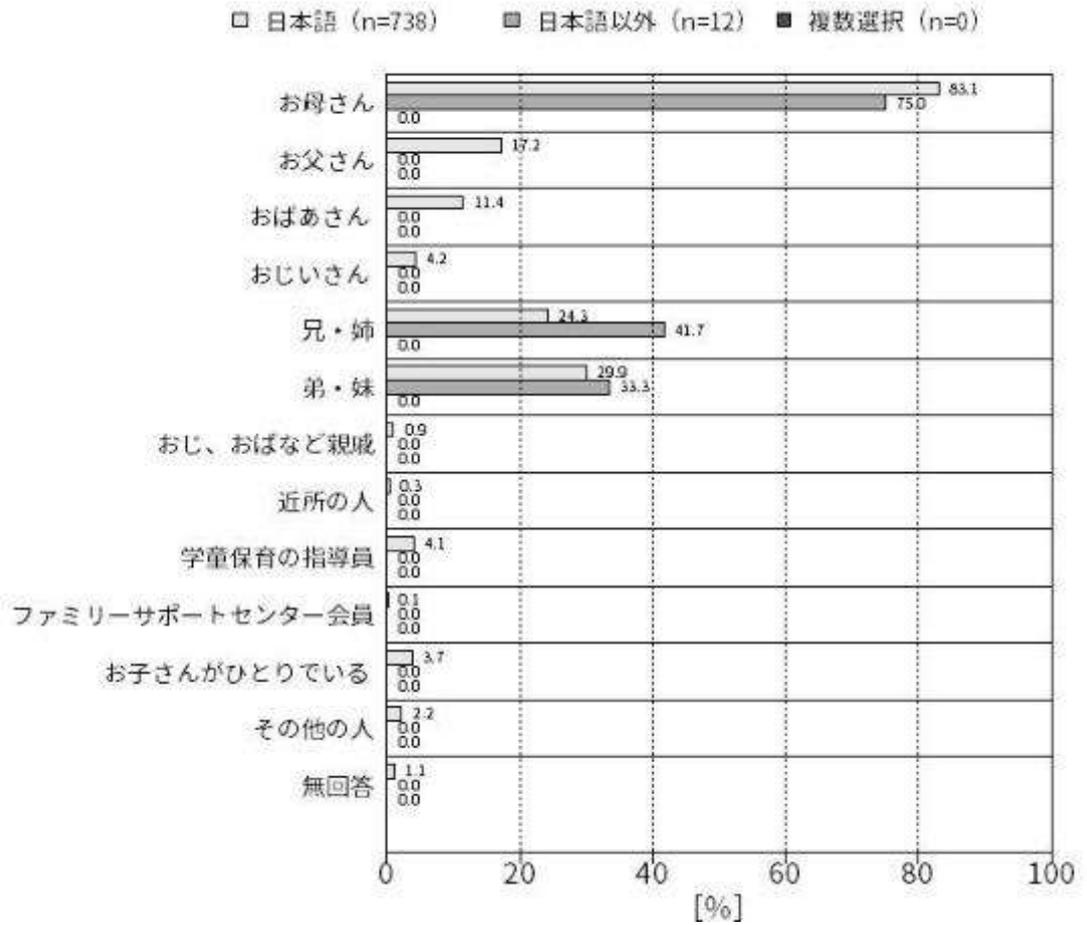
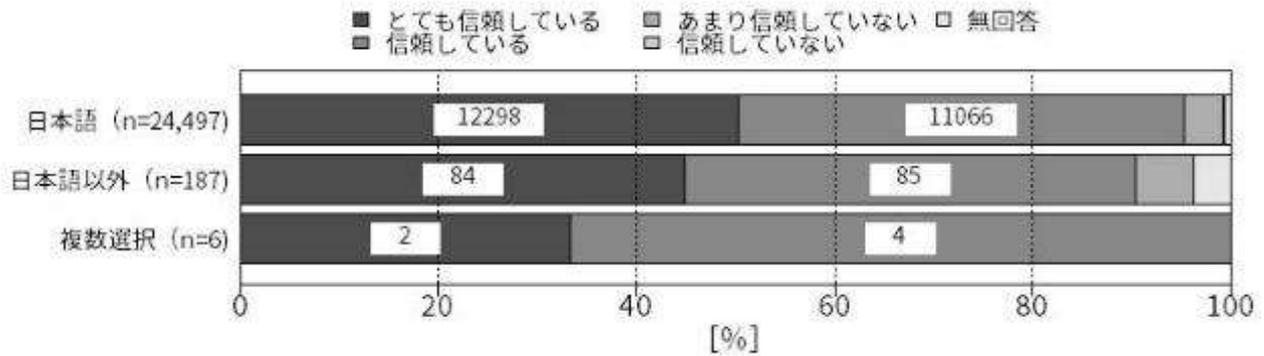


図 269. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

日本語を母語としない人の方が、日本語を母語とする人と比べて、子どもと過ごす時間が長い人を「お母さん」と回答した割合が 75.0%である。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
 (子どもへの信頼度) (保護者票 問2 × 保護者票 問14(1))

<大阪市24区>



<大阪市北区>

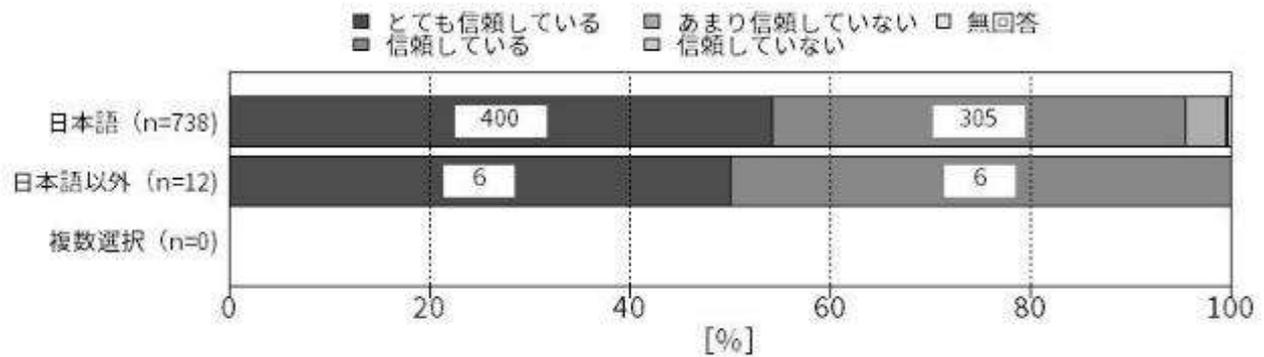
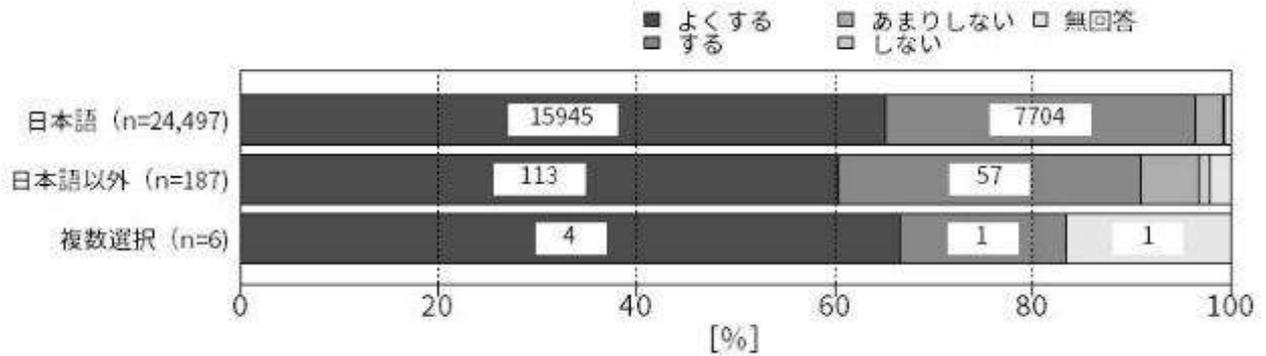


図 270. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもへの信頼度)

日本語を母語としない場合、子どもを「とても信頼している」と回答した割合が50.0%であったのに対し、日本語を母語とする場合では54.2%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
 (子どもと会話) (保護者票 問2 × 保護者票 問14(2))

<大阪市24区>



<大阪市北区>

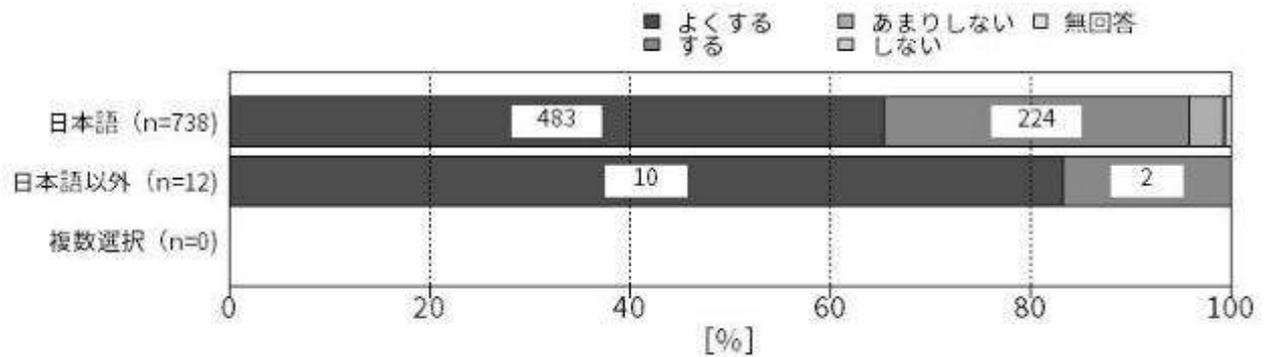


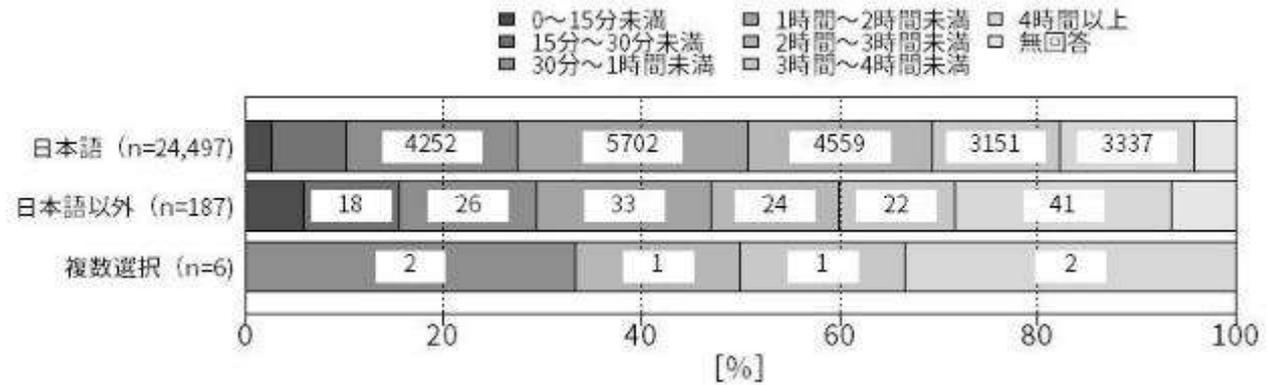
図 271. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもと会話)

日本語を母語としない場合、子どもと会話を「よくする」と回答した割合が 83.3%であったのに対し、日本語を母語とする場合では 65.4%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり

(子どもと一緒にいる時間(平日))(保護者票 問2 × 保護者票 問14(3))

<大阪市24区>



<大阪市北区>

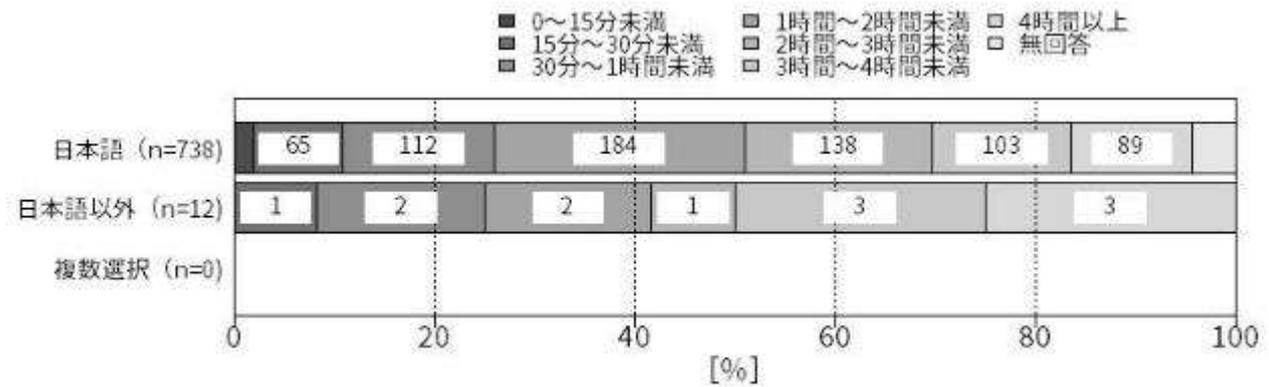


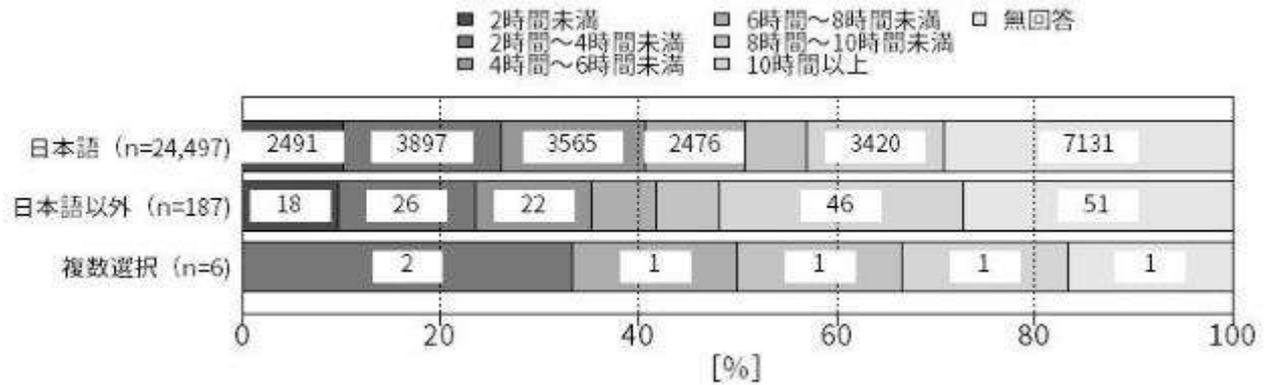
図 272. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
(子どもと一緒にいる時間(平日))

日本語を母語としない場合、平日に子どもと一緒にいる時間が「4時間以上」と回答した割合が25.0%であったのに対し、日本語を母語とする場合では12.1%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり

(子どもと一緒にいる時間(休日))(保護者票 問2 × 保護者票 問14(3))

<大阪市24区>



<大阪市北区>

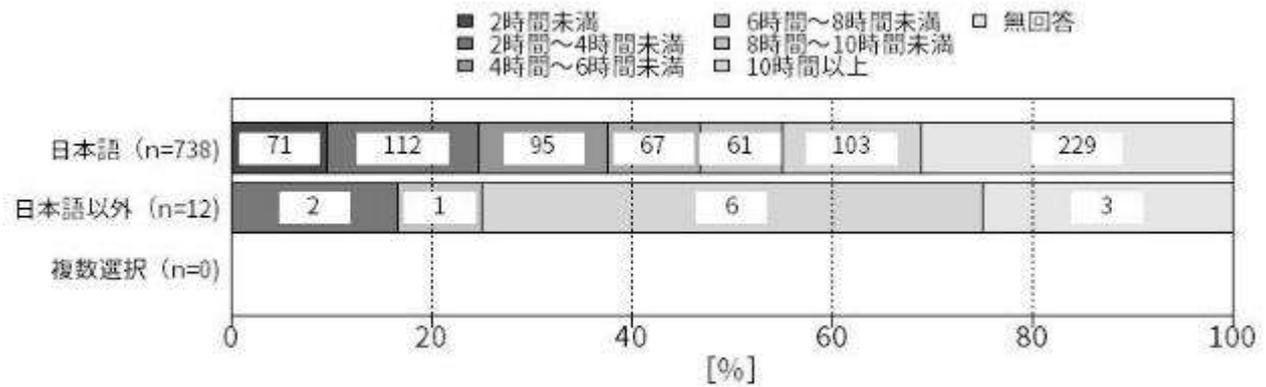
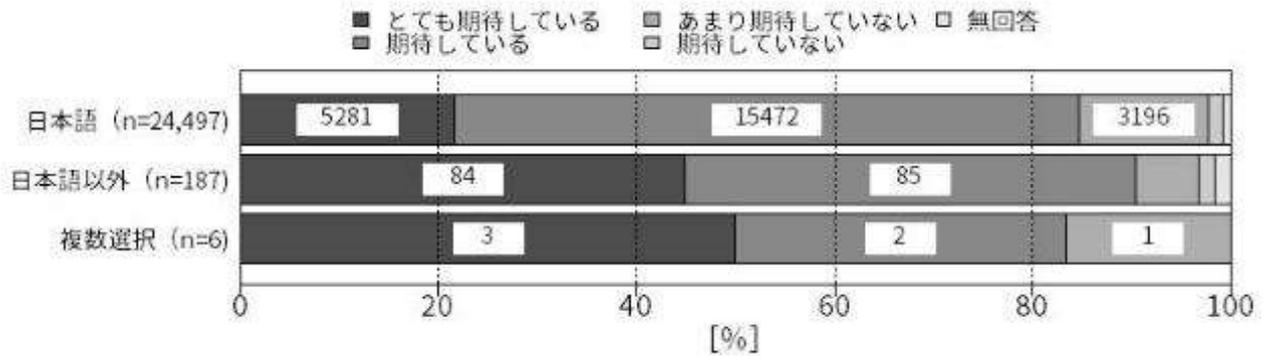


図 273. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
(子どもと一緒にいる時間(休日))

日本語を母語としない場合、休日に子どもと一緒にいる時間が「10時間以上」と回答した割合が50.0%であったのに対し、日本語を母語とする場合では14.0%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
 （保護者票 問2 × 保護者票 問14(4)）

<大阪市24区>



<大阪市北区>

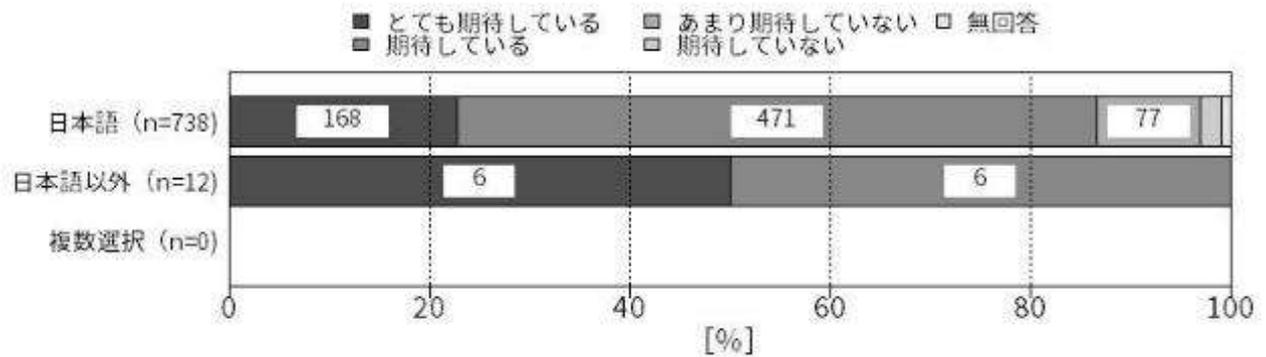
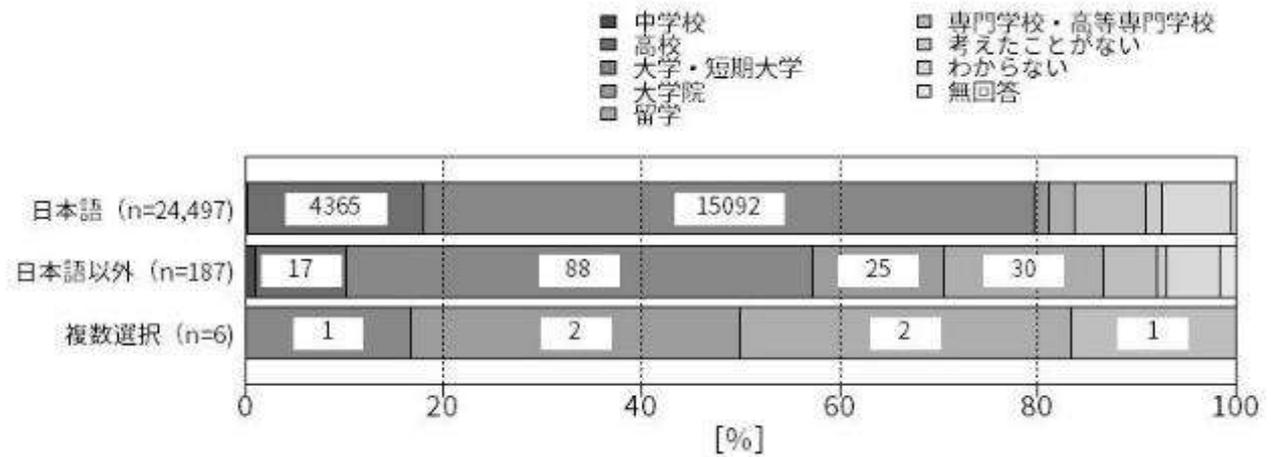


図 274. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
 (子どもへの将来の期待)

日本語を母語としない場合、子どもの将来を「とても期待している」と回答した割合が50.0%であったのに対し、日本語を母語とする場合では22.8%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、希望する進学先（保護者票 問2 × 保護者票 問15）

<大阪市 24 区>



<大阪市北区>

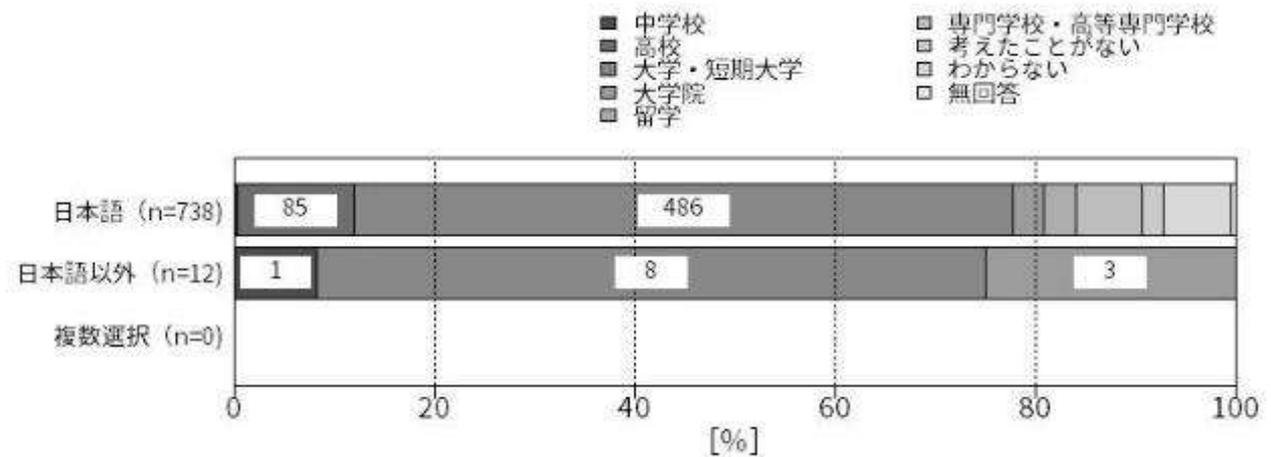


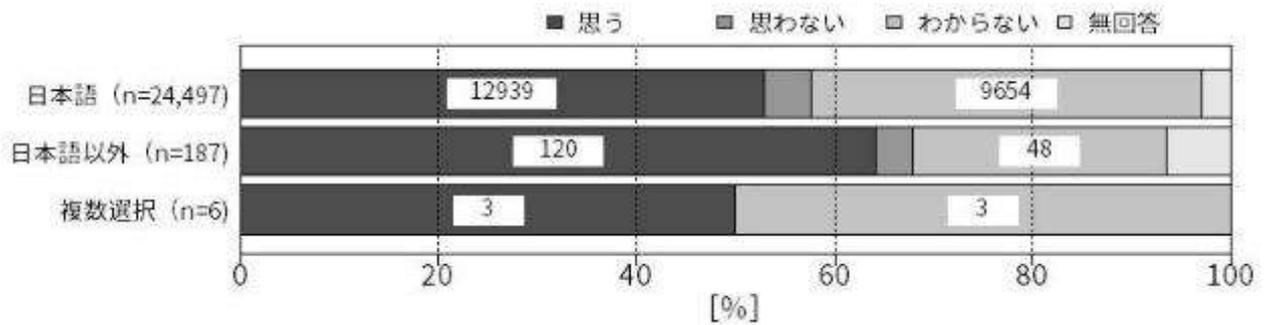
図 275. 日常生活でよく使う言葉別に見た、希望する進学先

日本語を母語としない場合、子どもの進学について「大学・短期大学」まで希望すると回答した割合が該当なしであるのに対し、日本語を母語とする場合では 11.5%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測

(保護者票 問2 × 保護者票 問16)

<大阪市24区>



<大阪市北区>

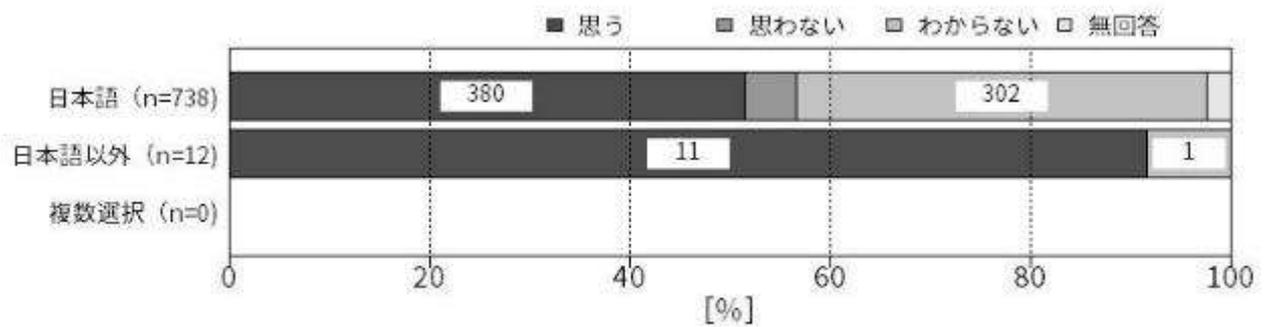
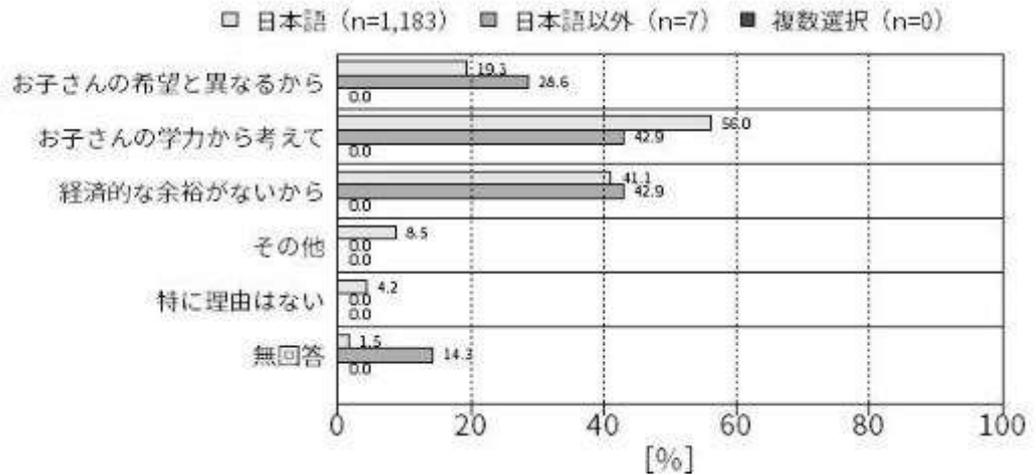


図 276. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測

日本語を母語としない場合、子どもが希望する進学先まで進むと「思う」と回答した割合が 91.7%であったのに対し、日本語を母語とする場合では 51.5%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由
 (保護者票 問2 × 保護者票 問17)

<大阪市24区>



<大阪市北区>

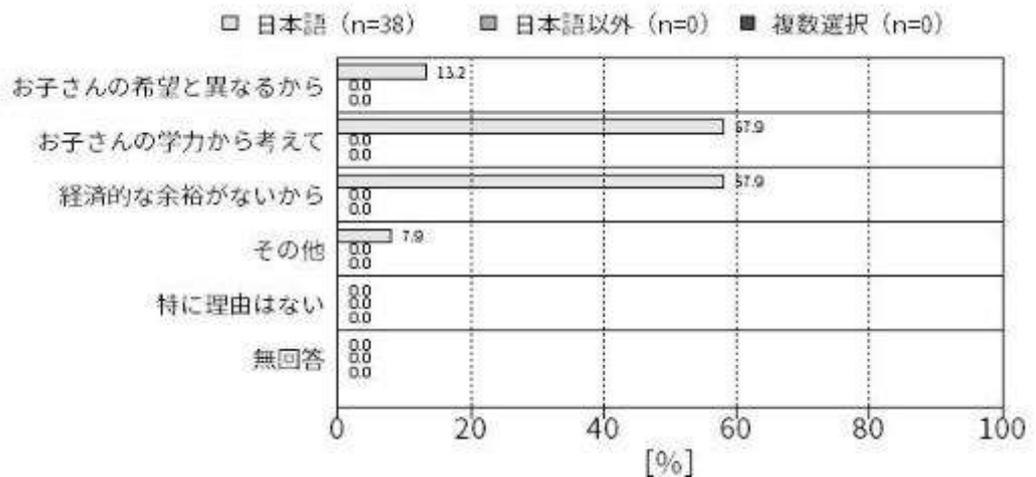
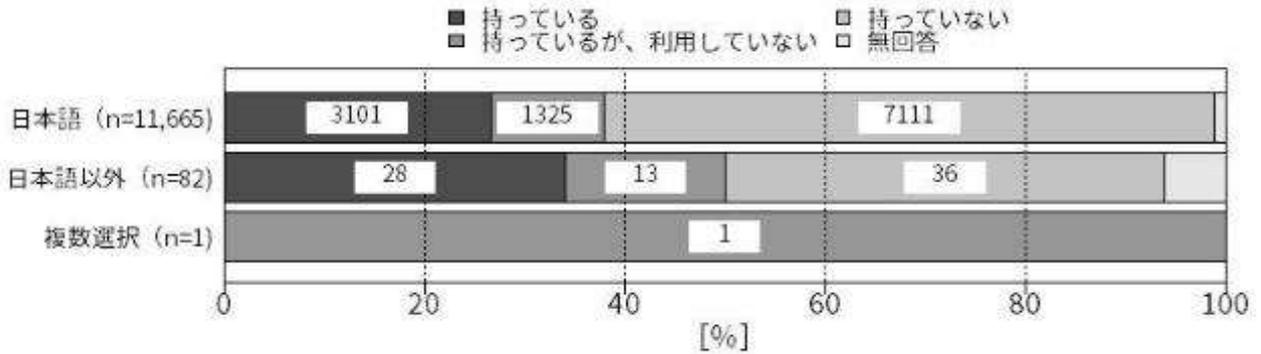


図 277. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由

子どもの進学達成「思わない」理由について、日本語を母語とする場合しか該当者がいなかった。日常生活でよく使う言葉別に、子どもの進学達成「思わない」理由について述べることはできない。日本語を母語とする場合、子どもが希望する進学先まで進むと思わないと回答した理由として、「お子さんの学力から考えて」が57.9%と多くなっている。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況
 (保護者票 問2 × 保護者票 問18)

<大阪市24区>



<大阪市北区>

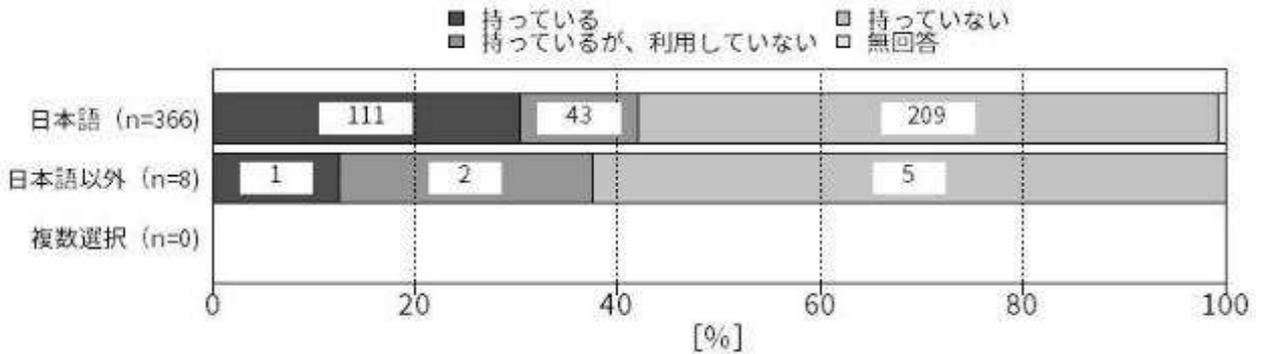
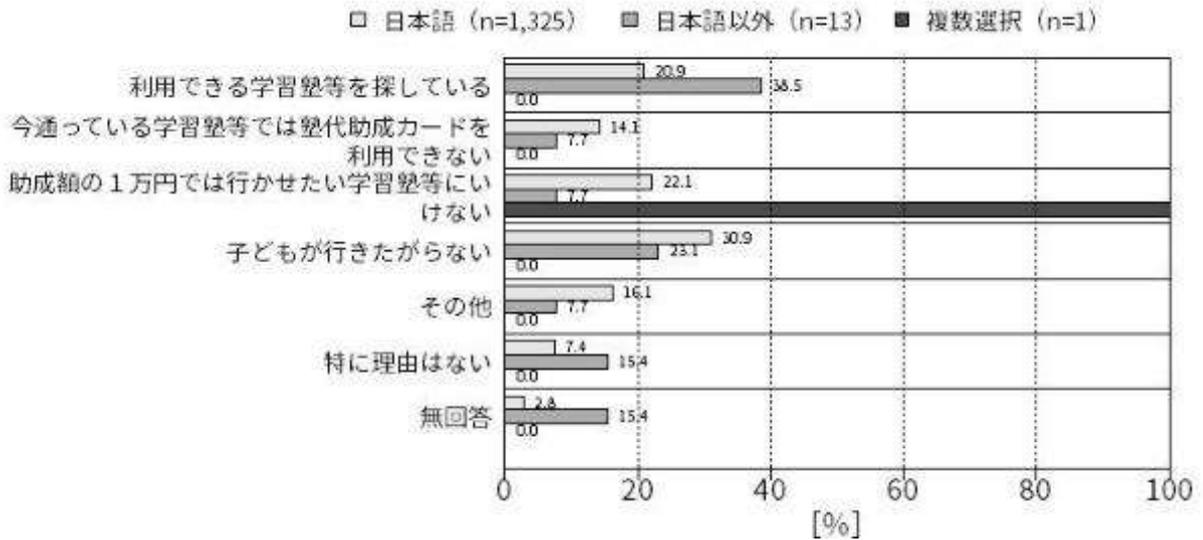


図 278. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況

塾代助成カードの所持状況について、日本語を母語としない場合は8人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、塾代助成カードの所持状況について述べることはできない。日本語を母語とする場合、塾代助成カードを「持っている」と回答した割合30.3%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由
 (保護者票 問2 × 保護者票 問19)

<大阪市24区>



<大阪市北区>

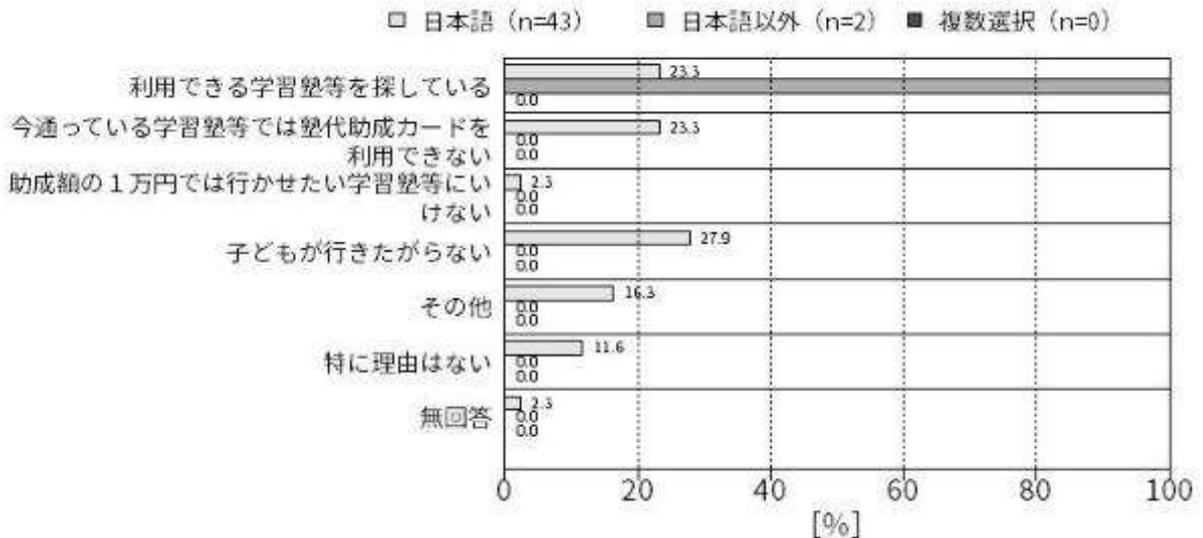
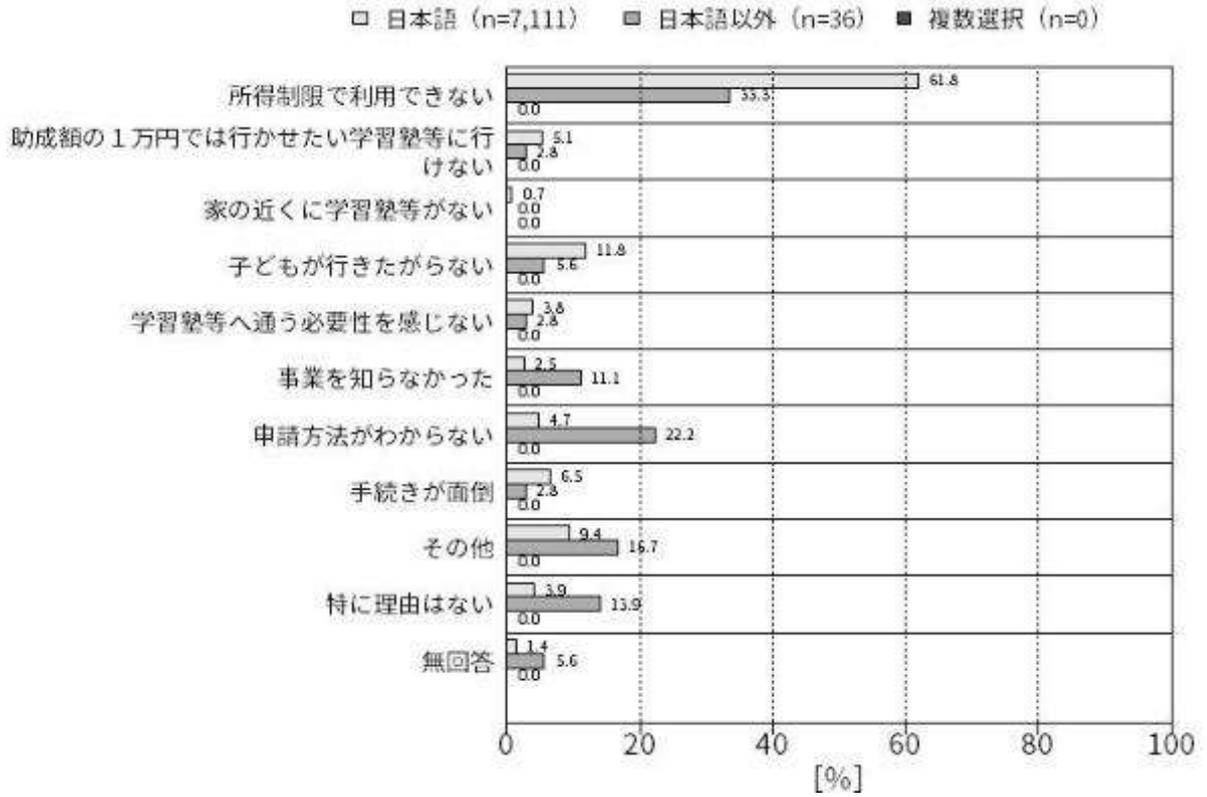


図 279. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由

塾代助成カードを持っているが利用していない理由について、日本語を母語としない場合は2人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、塾代助成カードを持っているが利用していない理由について述べることはできない。日本語を母語とする場合、塾代助成カードを持っているが利用していない理由として、「子どもが行きたがらない」が27.9%と多くなっている。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由
 (保護者票 問2 × 保護者票 問20)

<大阪市 24 区>



<大阪市北区>

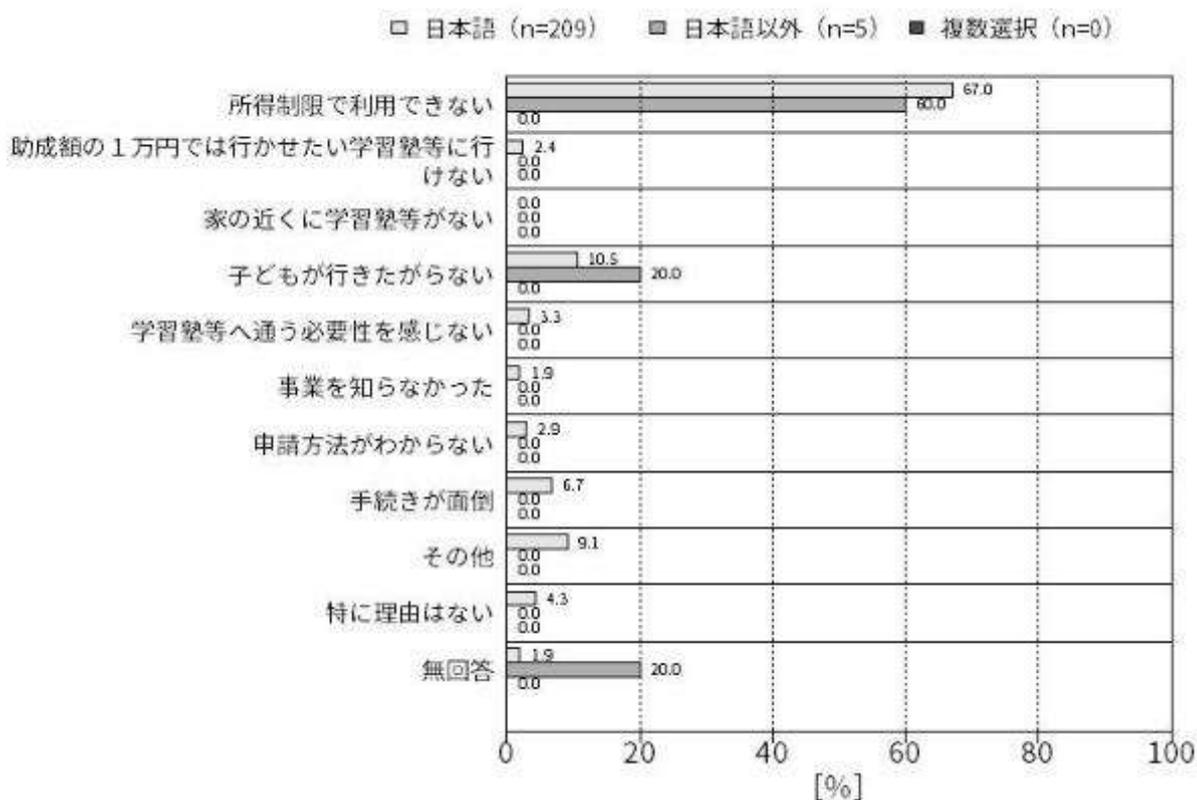


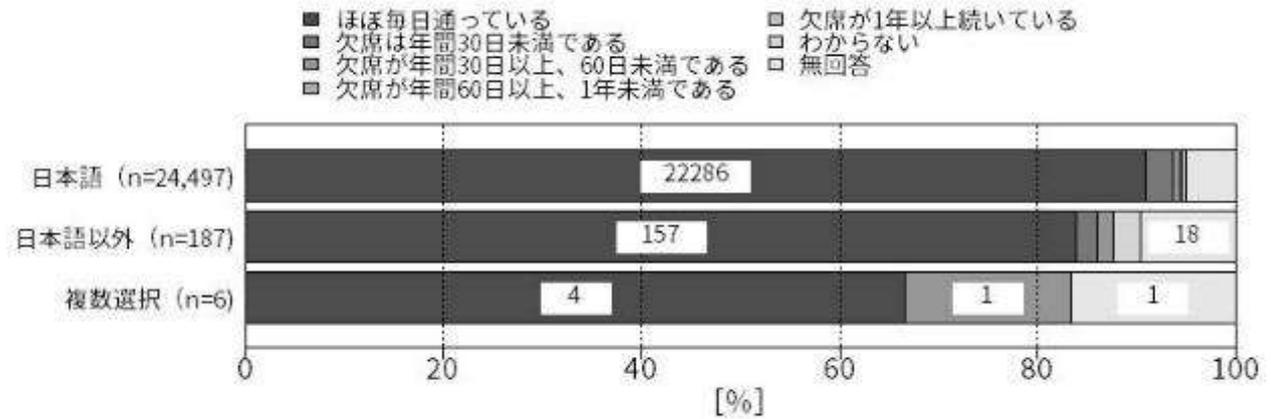
図 280. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

塾代助成カードを持っていない理由について、日本語を母語としない場合は5人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、塾代助成カードを持っていない理由について述べることはできない。日本語を母語とする場合、塾代助成カードを持っていない理由として、「所得制限で利用できない」が60%と多くなっている。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

(保護者票 問2 × 保護者票 問21)

<大阪市24区>



<大阪市北区>

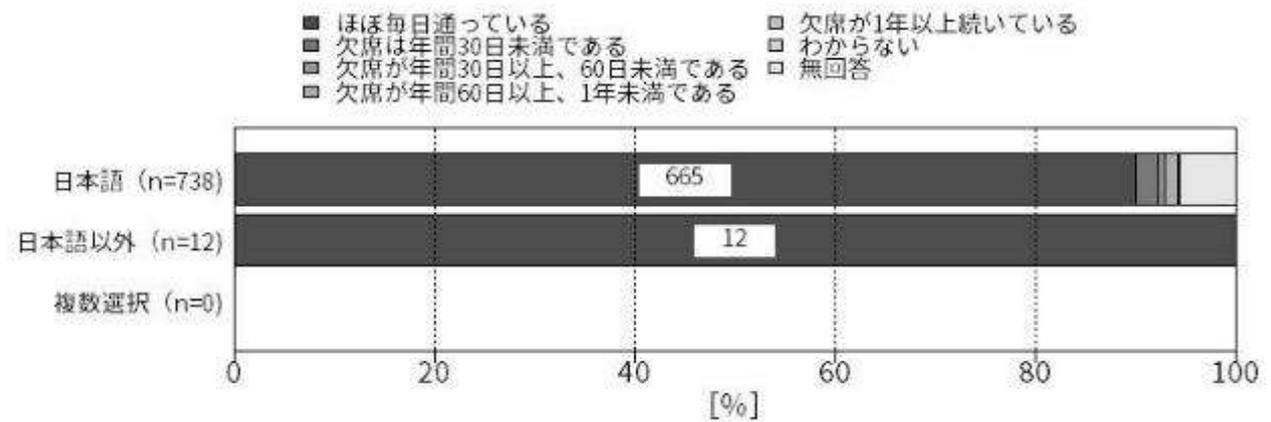


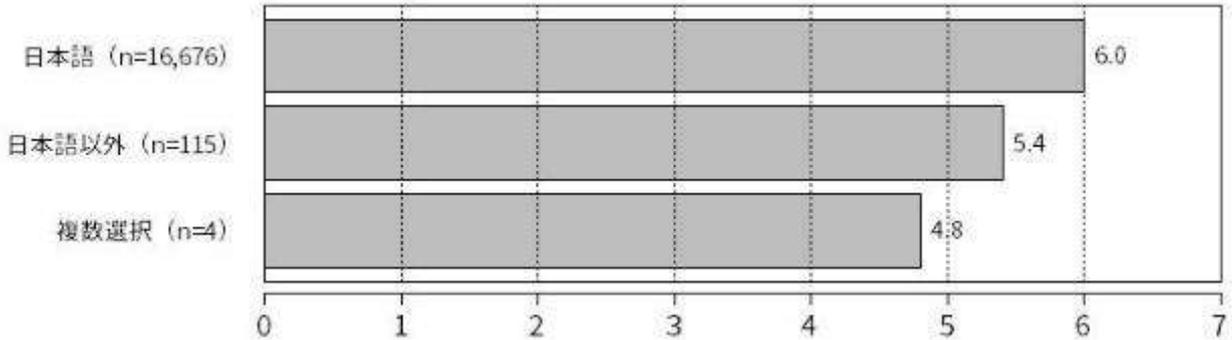
図 281. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

日本語を母語としない場合、学校に「ほぼ毎日通っている」と回答した割合は100%で、日本語を母語とする場合は90.1%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点
 (保護者票 問2 × 保護者票 問23①~⑦)

※「支えてくれる人得点」については図198上の説明参照。

<大阪市24区>



<大阪市北区>

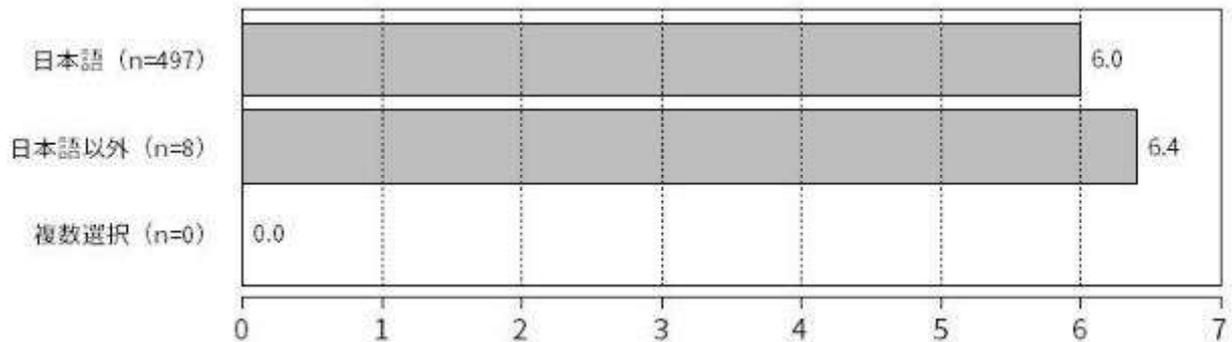


図282. 日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点

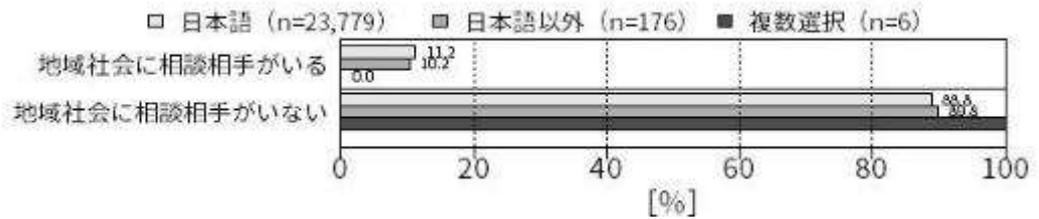
日本語を母語としない人の方が、「支えてくれる人」の平均値が6.4点であるのに対し、日本語を母語とする場合では6.0点である。(問20 おうちの方を含め「支えてくれる、手伝ってくれる人」の具体的な内訳は、①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人、②あなたの気持ちを察して思いやってくれる人、③趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換してくれる人、④子どものとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人、⑤子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人(運動や文化活動)、⑥子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人、⑦留守を頼める人である。)

日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

(保護者票 問2 × 保護者票 問24)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問いに対し、「学校の先生やスクールカウンセラー」「子育て講座(小・中学生を持つ保護者を対象)等を担当するリーダーや職員等」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体」「民間のカウンセラー・電話相談」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪市24区>



<大阪市北区>



図 283. 日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

日本語を母語としない場合は、「地域社会に相談相手がない」と回答した割合が 91.7%で、日本語を母語とする場合では 87.7%であった。

<家庭生活・学習に関する考察>

困窮度が高まるにつれ、おうちの大人の人と一緒に朝食を取る頻度が下がり、困窮度Ⅰ群では、「まったくくない」「ほとんどない」合わせると34.0%（大阪市全体：35.3%）が朝食を一緒にとっていない。同様に、おうちの大人に宿題をみてもらう頻度、大人と文化活動をする頻度は下がり、前者の宿題を見てもらわない子どもが35.0%（大阪市全体35.9%）、後者の文化活動をともにするかどうかについては、まったくくない子どもが35.0%（大阪市全体40.0%）、ほとんどないと合わせると71.0%（大阪市全体：78.1%）を占め、中央値以上と8ポイントほど（大阪市全体は7ポイントほど）の差がある。

勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、30分以内と少なくなり、読書時間も同様の傾向で、困窮度Ⅰ群では全くしない人は32.0%（大阪市全体：37.6%）を占める。これらの結果として学習理解度は、困窮度Ⅰ群では、あまりわからない・ほとんどわからない人が25.0%（大阪市全体：23.4%）になる。

同じ時刻に起床しない、朝食を毎日とらないなど生活習慣が確立していない子どものほうが勉強や読書を「まったくくない」傾向がある。これらの生活習慣は、困窮度が高くなると確立していない傾向がみられた。

子どもの将来に関して、困窮度Ⅰ群では、13.0%（大阪市全体：17.9%）の保護者があまり期待していない。子ども自身の進学希望と保護者の希望では、困窮度が高まるにつれ、「中学校」「高校」と回答した子どもが増え、困窮度Ⅰ群では、その値が子どもの希望19.0%（大阪市全体：25.4%）、保護者の進学希望23.0%（大阪市全体：33.5%）となる。つまり、子ども自身が希望は高校卒業までではないが、保護者はそこまでと思っているずれがある。保護者も困窮度が高まるにつれ、子どもの進学達成をあきらめており、その理由が経済的理由である割合が大阪市と比べても85.7%（大阪市全体：64.8%）とかなり高い。

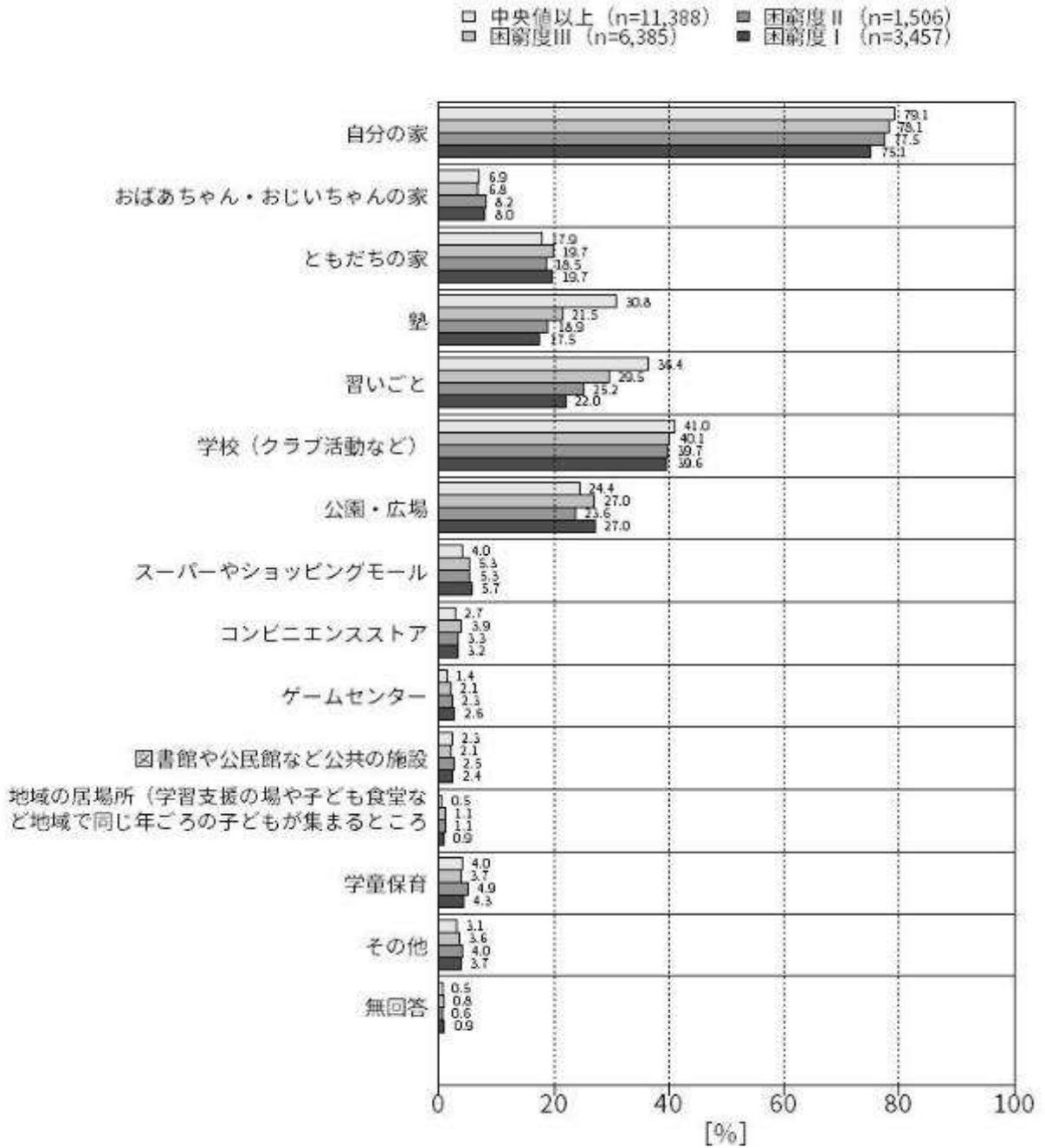
困窮度別に学校への遅刻を見ると、困窮度が高まるにつれ、週に1回以上遅刻をする子どもの割合が増え、困窮度Ⅰ群では、18.0%（大阪市全体：18.4%）である。困窮度別に子どもの通学状況を見ると、困窮度Ⅰ群では「ほぼ毎日通っている」が82.0%（大阪市全体：88.1%）、週1回以上遅刻する子どもは、おうちの大人と朝食をほとんど毎日とっているのが37.8%（大阪市全体：39.7%）、夕食で67.6%と遅刻をしない子どもと比較して低くなり（大阪市全体：75.2%）、学校でのできごとについて話すこと、社会のできごとを話すこと、なども合わせて低くなっている。週1回以上遅刻する子どもは進学希望が「中学校」「高校」の割合が17.1%（大阪市全体：22.3%）、遅刻はしない子どもは、「大学・短期大学」が42.7%（大阪市全体：39.8%）であった。

もともと数値が低いので限定はしにくいだが、北区の状況では、大阪市全体と比べて、家庭生活面、学習面での親子のかかわりが特に低いわけではなく、進路をあきらめる理由に経済面が高くなるというのは、まさに経済的要因の影響力が高いとも読め、経済的理由による断念をなくすこと優先に考えるべきであろう。

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後に過ごす場所（子ども票 問13）

<大阪市 24 区>



<大阪市北区>

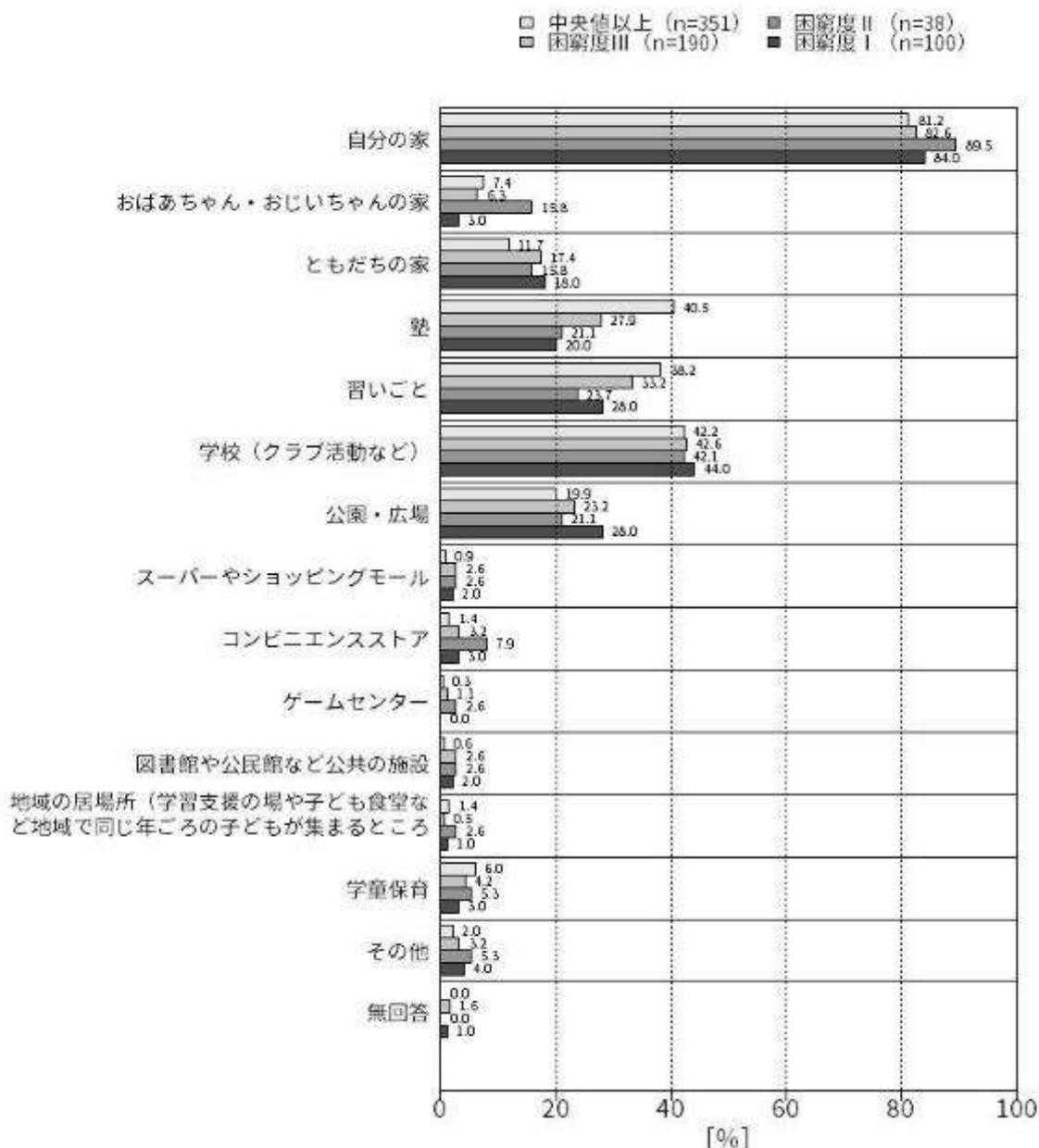
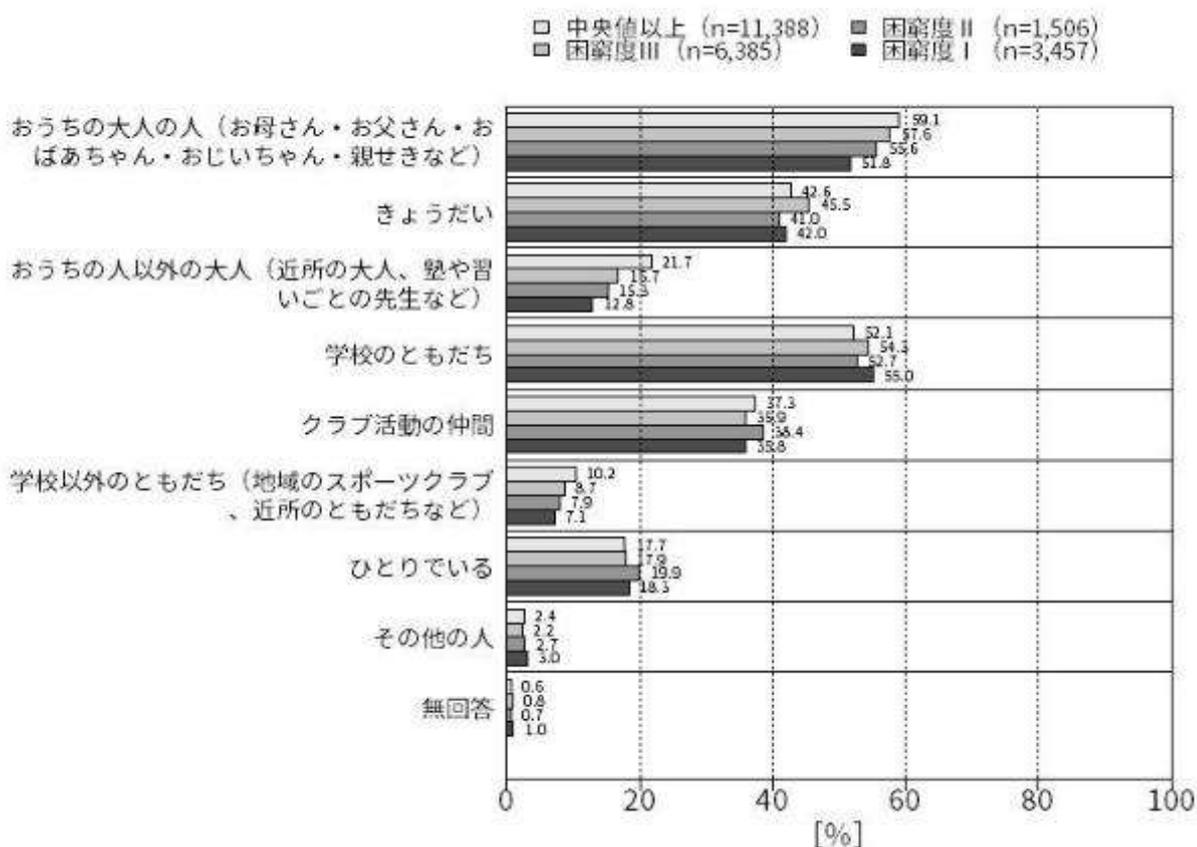


図 284. 困窮度別に見た、放課後に過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「図書館や公民館など公共の施設」2.0%（中央値以上群に対して、3.3倍）、「スーパーやショッピングモール」2.0%（2.2倍）、「コンビニエンスストア」3.0%（2.1倍）、となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また、中央値以上群では「おばあちゃん・おじいちゃんの家」7.4%（困窮度Ⅰ群に対して、2.5倍）、「塾」40.5%（2.0倍）、「学童保育」6.0%（2.0倍）が高かった。

困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人（子ども票 問 12）

<大阪市 24 区>



<大阪市北区>

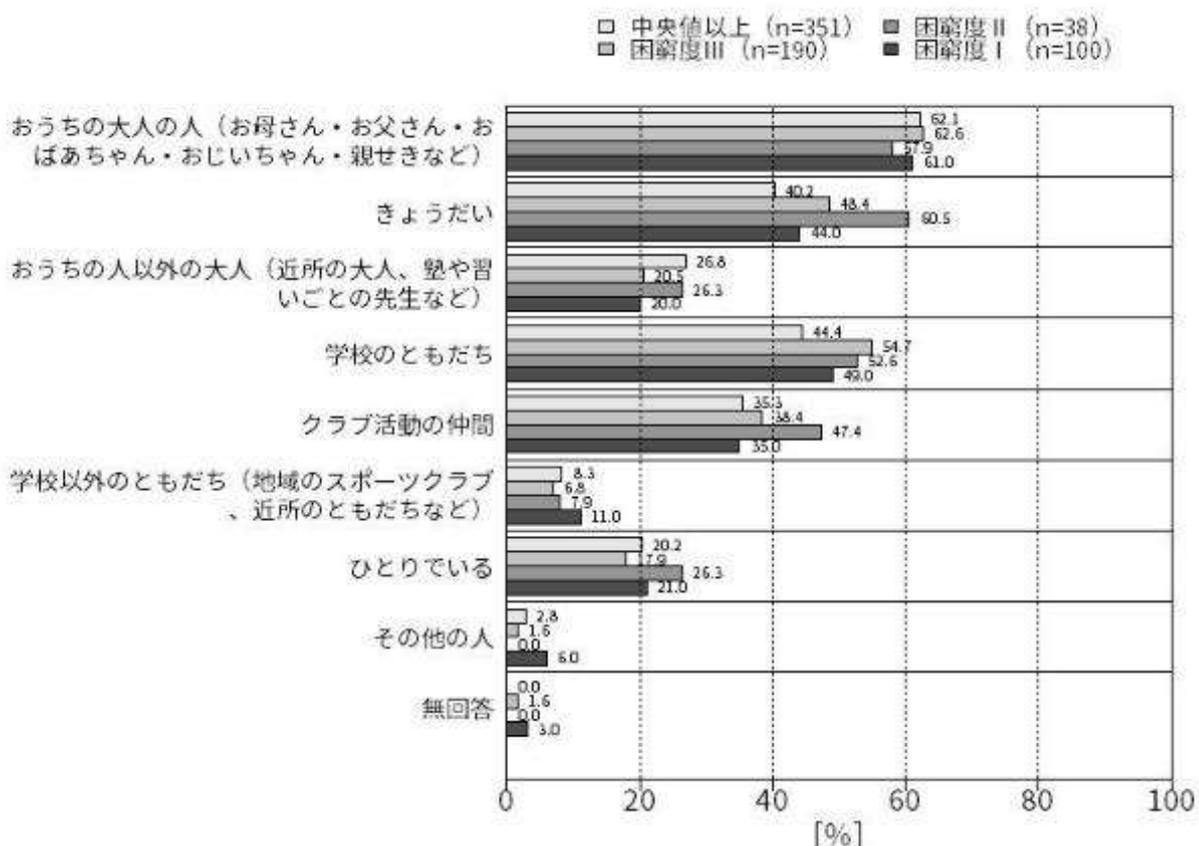
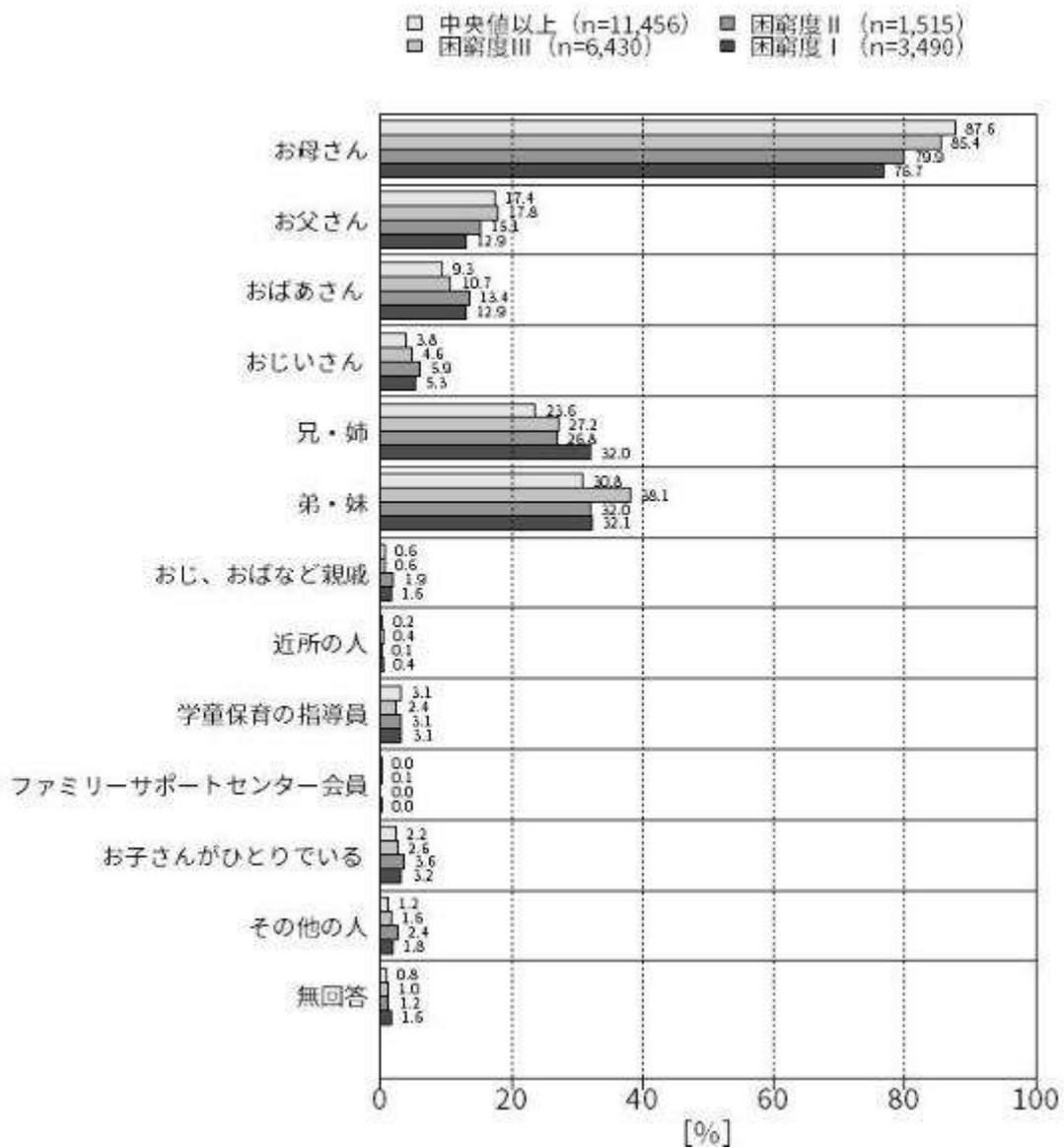


図 285. 困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「その他の人」6.0% (中央値以上群に対して、2.1 倍)、「学校以外のともだち (地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど)」11.0% (1.3 倍と高く、中央値以上群では「おうちの人以外の大人 (近所の大人、塾や習いごとの先生など)」26.8% (困窮度 I 群に対して、1.3 倍) が高かった。

困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人（保護者票 問 11）

<大阪市 24 区>



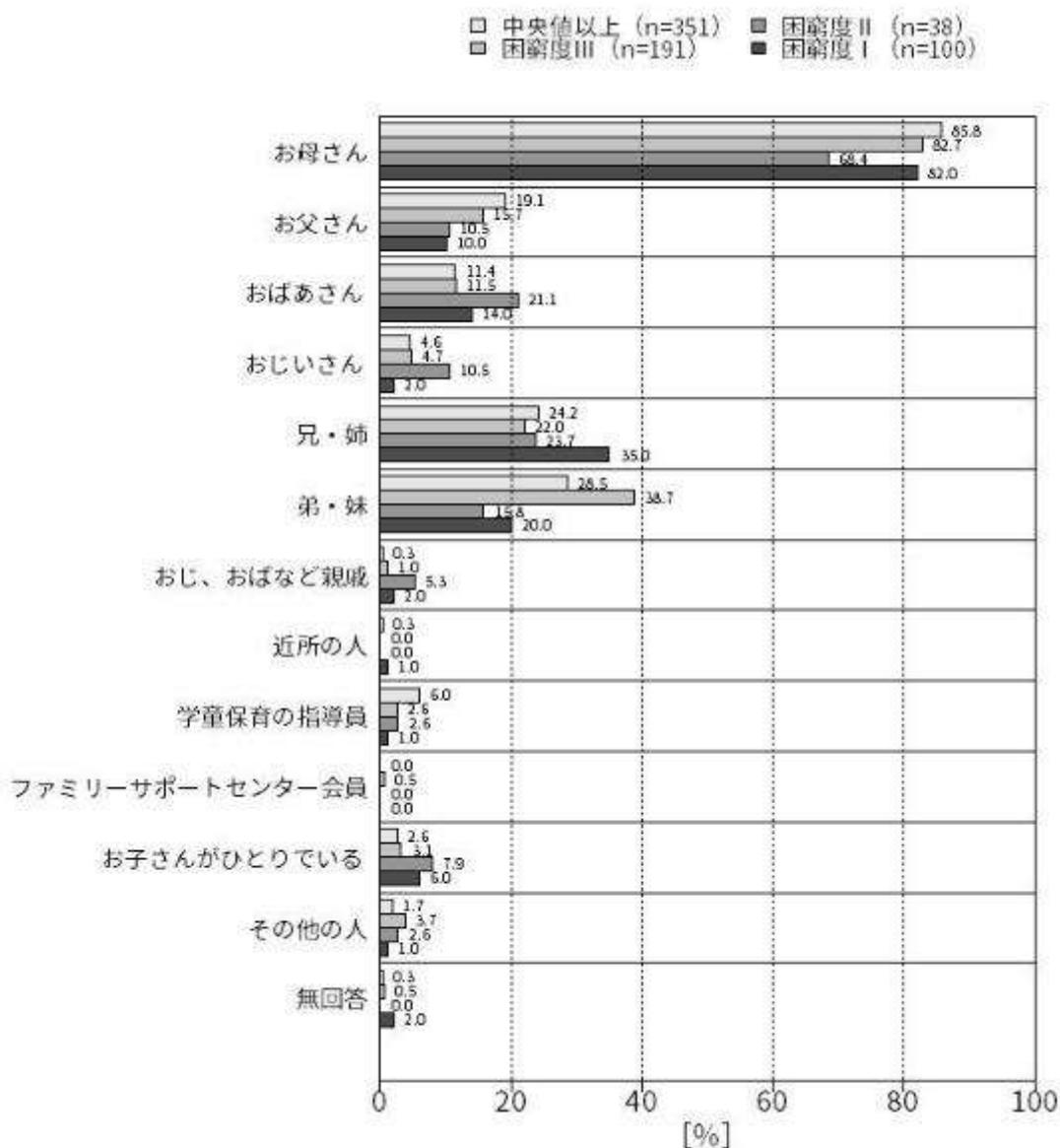
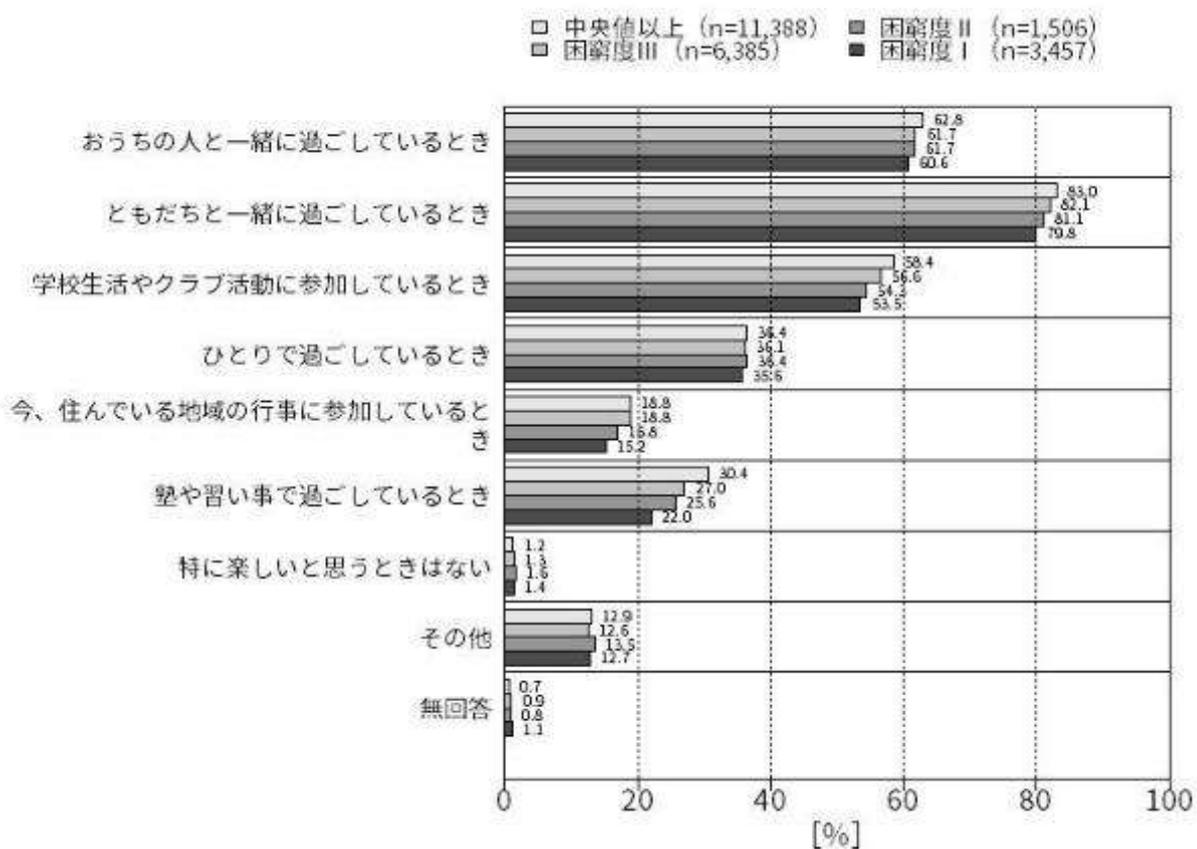


図 286. 困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

困窮度別に保護者が放課後に子どもと過ごす時間が長い人を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「おじ、おばなど親戚」2.0%（中央値以上群に対して、6.7 倍）、「近所の人」1.0%（3.3 倍）、「お子さんがひとりである」6.0%（2.3 倍）となり、困窮度 I 群において高い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票 問 11）

<大阪市 24 区>



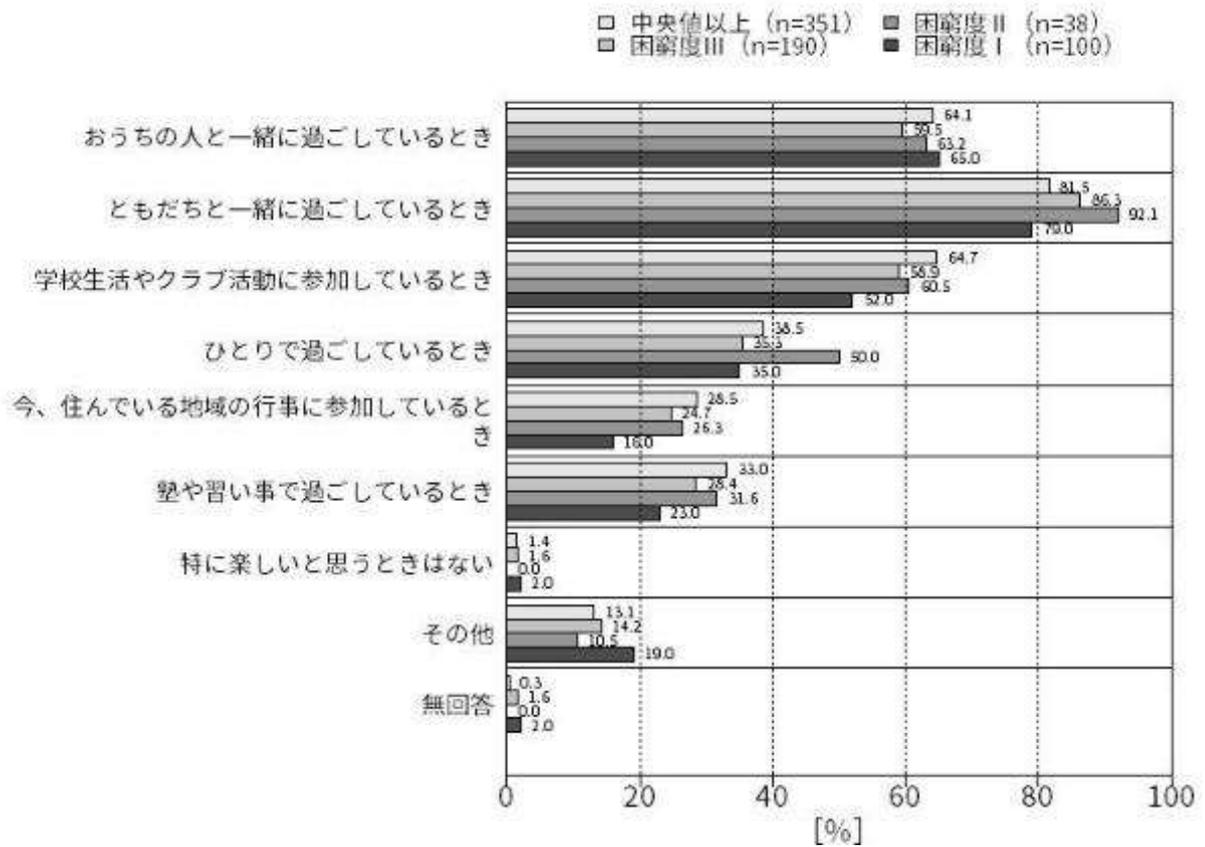


図 287. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「その他」19.0%（中央値以上群に対して、1.5倍）、「特に楽しいと思うときはない」2.0%（1.4倍）が高かった。

困窮度別に見た、悩んでいること（子ども票 問21）

<大阪市 24 区>

